

令和7年度 不登校児童生徒体験活動推進事業

はつらつ体験塾

事業実施報告書



新潟県教育委員会

目 次

I まとめ及び成果

- ◇ 令和7年度「はつらつ体験塾」実施状況一覧
- ◇ 参加児童生徒の内訳
- ◇ はつらつ体験塾参加後の児童生徒の様子1(参加児童生徒アンケートより)
- ◇ はつらつ体験塾参加後の児童生徒の様子2(保護者アンケートより)
- ◇ 参加児童生徒事後調査結果
- ◇ 過去10年の参加・復帰状況等の推移
- ◇ 各回の実施状況報告書

II 推進委員会

- ◇ 推進委員会設置要綱
- ◇ 推進委員会名簿
- ◇ 推進委員会議事概要

III 推進計画

IV はつらつ通信

- ◇ 第1回はつらつ体験塾、はつらつ通信
- ◇ 第2回はつらつ体験塾、はつらつ通信
- ◇ 第3回はつらつ体験塾、はつらつ通信

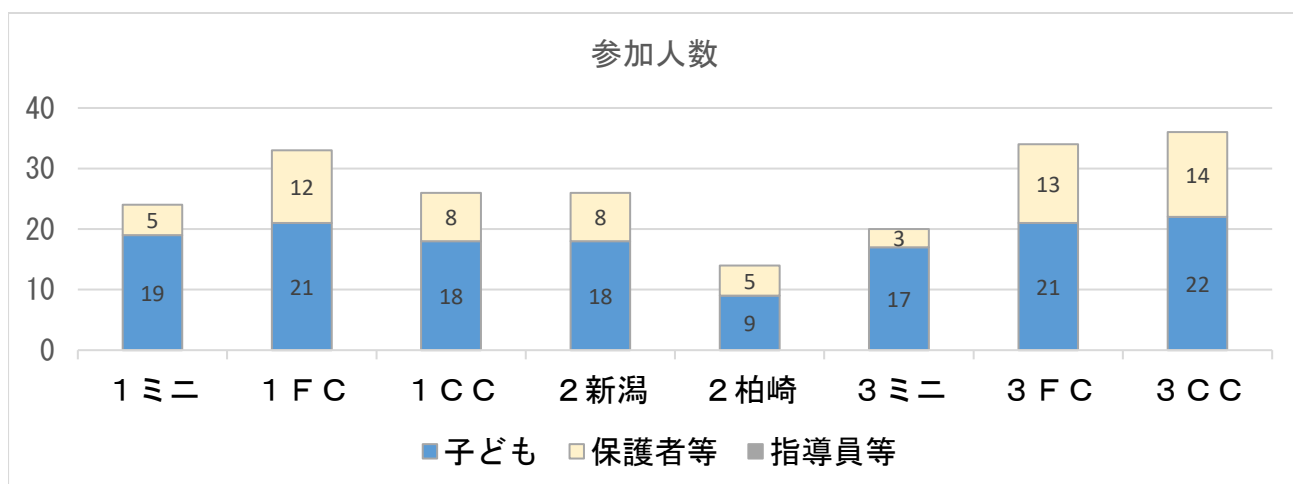
I まとめ及び成果

令和7年度「はつらつ体験塾」実施状況一覧

◇参加児童生徒実数 43人（R6年度：51人）
 ◇参加保護者等実数 30人（R6年度：27人）
 ※FC：フレンドリーキャンプ CC：チャレンジキャンプ

回	会 場	期 間（期 日）		参加者の状況（人）			
				子ども	保護者	指導員等	合計
1	新潟県少年自然の家	ミニ	5月10日（土）	19	5	0	24
		F C	6月14日（土）～ 15日（日）	21	12	0	33
		C C	7月12日（土）～ 13日（日）	18	8	0	26
2	新潟市アグリパーク	8月24日（日）		18	8	0	26
	柏崎夢の森公園	9月27日（日）		9	5	0	14
3	新潟県少年自然の家	ミニ	11月15日（土）	17	3	0	20
		F C	12月13日（土）～ 14日（日）	21	13	0	34
		C C	1月17日（土）～ 18日（日）	22	14	0	36
		延べ参加者数		145	68	0	213
		参加者実数		43	30	0	73

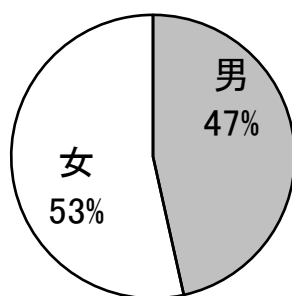
※令和元年度より、保護者オリエンテーションやキャンプに参加した保護者等も人数に含める。



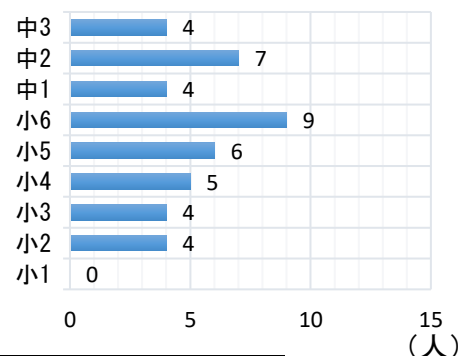
令和7年度「はつらつ体験塾」参加児童生徒の内訳

【参加児童生徒内訳】			
	小学生	中学生	合計
男	14	6	20
女	14	9	23
合計	28	15	43

【男女別割合】



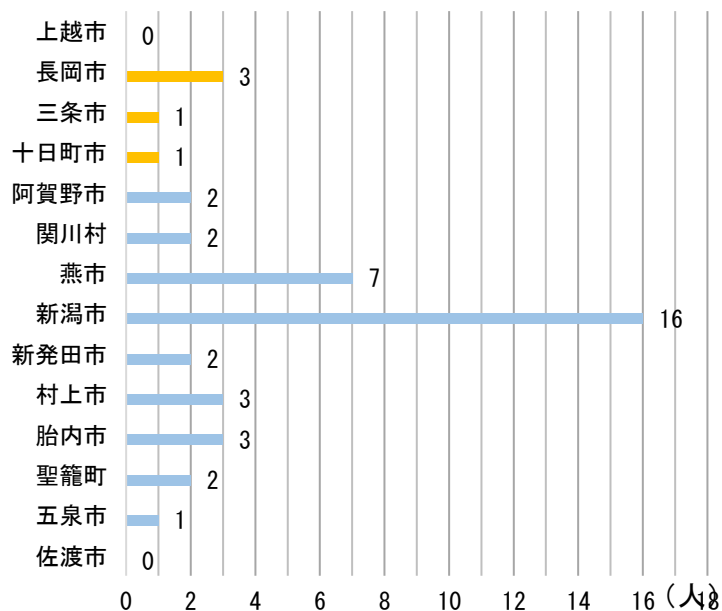
【学年別人数】



【学年別内訳】										
	小学生						中学生			合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
男	0	3	1	3	2	4	1	3	3	20
女	0	1	3	2	4	5	3	4	1	23
合計	0	4	4	5	6	9	4	7	4	43

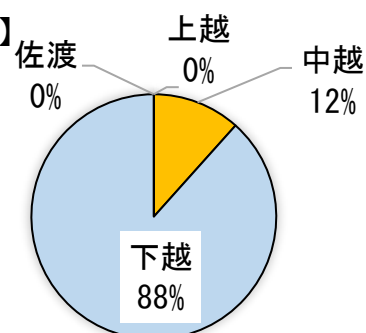
【市町村別内訳】				
	市町村	小学生	中学生	合計
上越	上越市	0	0	0
	長岡市	2	1	3
中越	三条市	1	0	1
	十日町市	1	0	1
	阿賀野市	2	0	2
下越	関川村	2	0	2
	燕市	3	4	7
	新潟市	9	7	16
	新発田市	1	1	2
	村上市	3	0	3
	胎内市	1	2	3
	聖籠町	2	0	2
	五泉市	1	0	1
	佐渡市	0	0	0
合計		28	15	43

【市町村別人数】



【地区別内訳】					
	上越	中越	下越	佐渡	合計
小学生	0	4	24	0	28
中学生		1	14	0	15
合計	0	5	38	0	43

【地区別内訳】



はつらつ体験塾参加後の児童生徒の様子 1

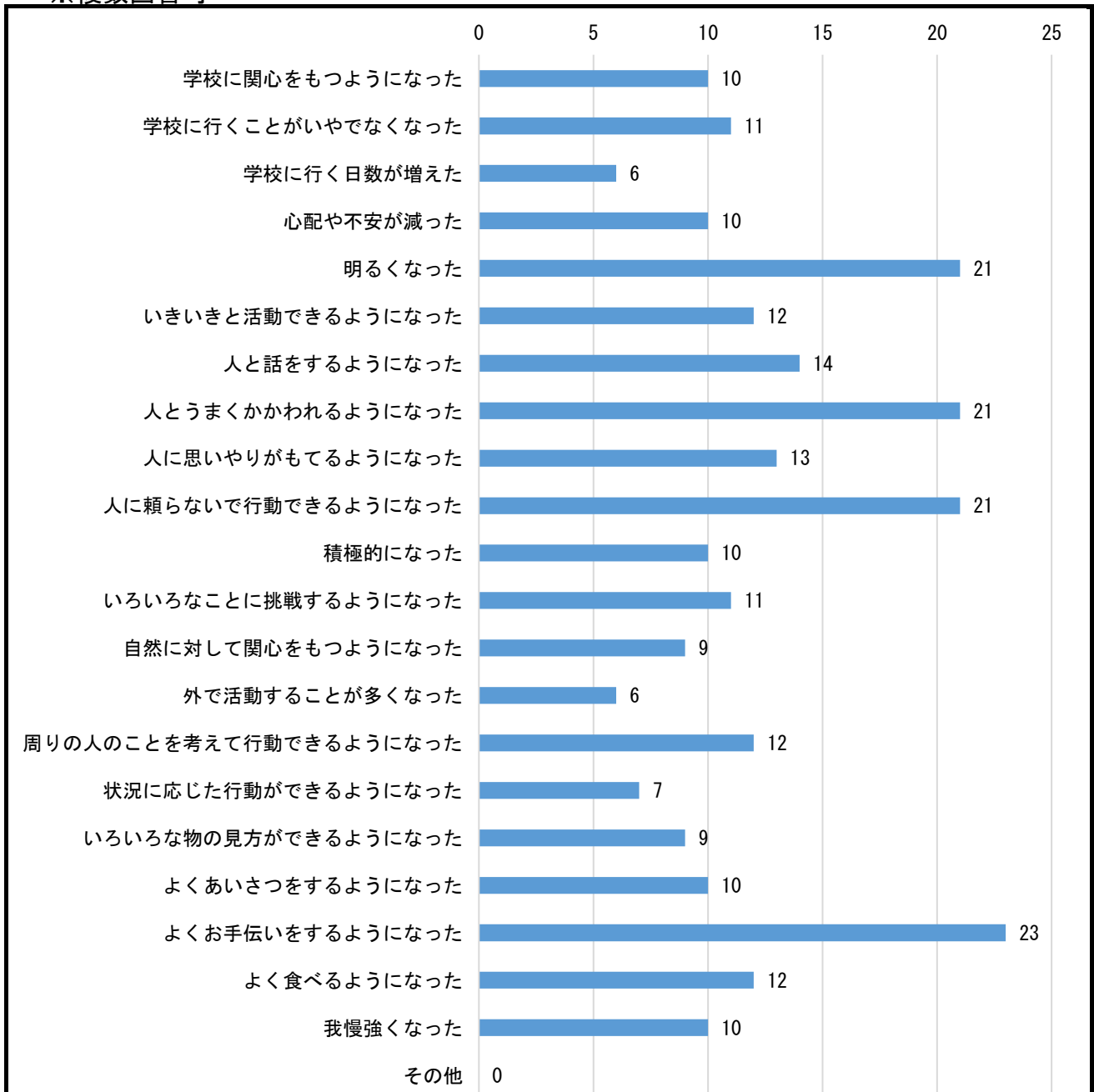
～ 令和7年度 アンケートデータ ～

参加児童生徒アンケート結果

・ 期 間 : 令和8年1月19日～2月28日

・ 回 収 率 : 100% (43人)

※複数回答可



<その他（具体的な内容）>

- ・ 楽しかった。× 7
- ・ 参加してよかった。× 8
- ・ 現実でのコミュニケーションがとれるようになった。
- ・ 先生方や大学生の方たちとコミュニケーションができて嬉しかった。
- ・ お友達ができたことが嬉しかった。
- ・ 体験でカレーうどんを作って、家でも料理をするようになりました。

はつらつ体験塾参加後の児童生徒の様子 2

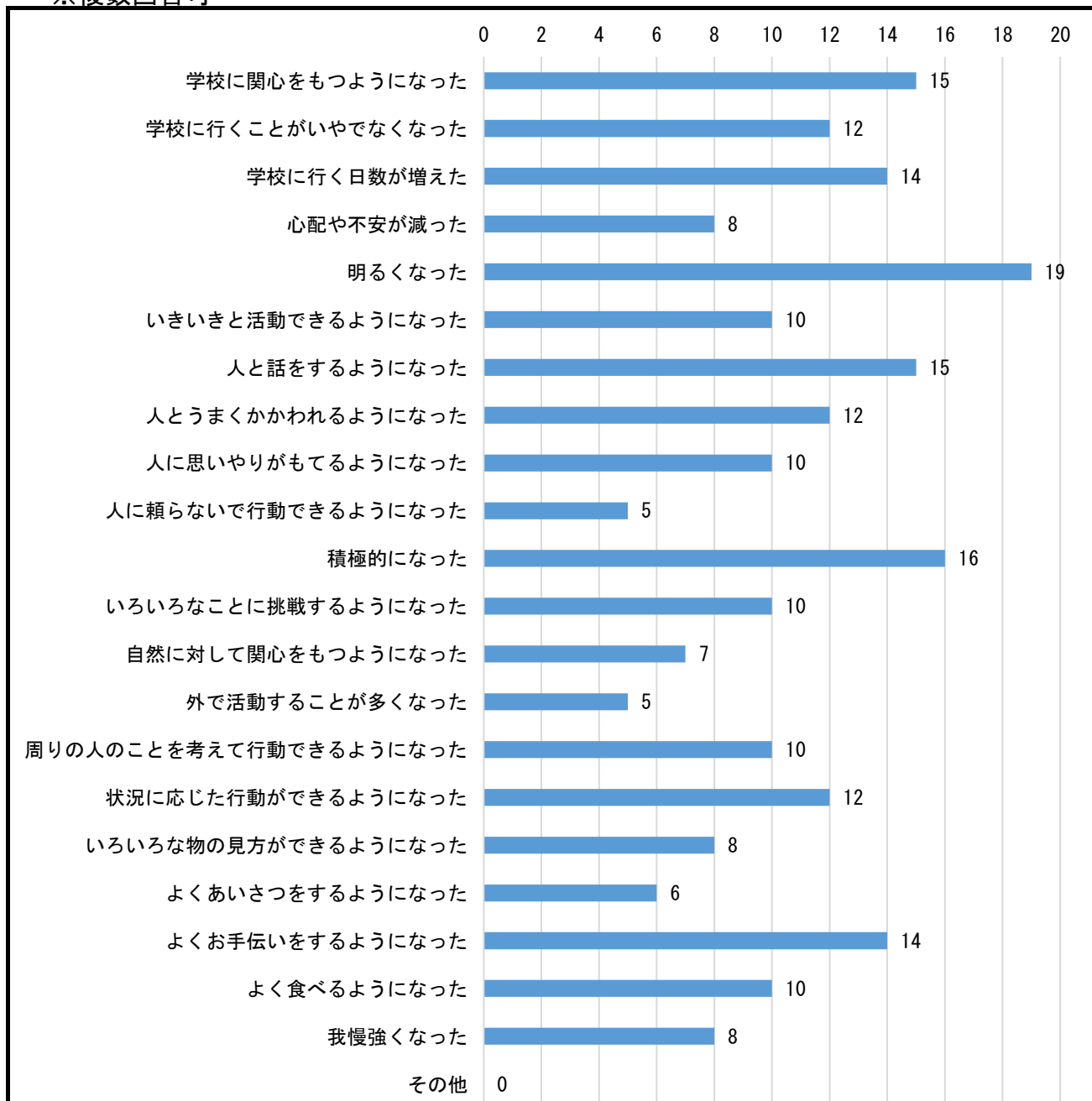
～ 令和7年度 アンケートデータ ～

保護者アンケート結果

・ 期 間 : 令和8年1月19日～2月28日

・ 回 収 率 : 100% (30人)

※複数回答可



<その他（具体的な内容）>

- ・ 大人ばかりに囲まれた環境から同年代のお子さんと触れ合い、高校生活に希望を持つことができました。
- ・ 子供だけでなく、親も楽しませていただきました。
- ・ 保護者プログラムで悩みを初めて分かち合えることができて気持ちが楽になりました。
- ・ 学校以外での居場所ができたのはとても喜んでいました。
- ・ 学校に行けてないことで、なかなか自信に繋がる経験が少ないので、元気を取り戻していく息子をみて、とても嬉しく思っています。
- ・ 学校には通えなかったけど、学校以上の事を学ばせていただきました。
- ・ 他の人の考えや見方を受け入れるようになってきたと思います。

参加児童生徒事後調査結果（保護者回答）

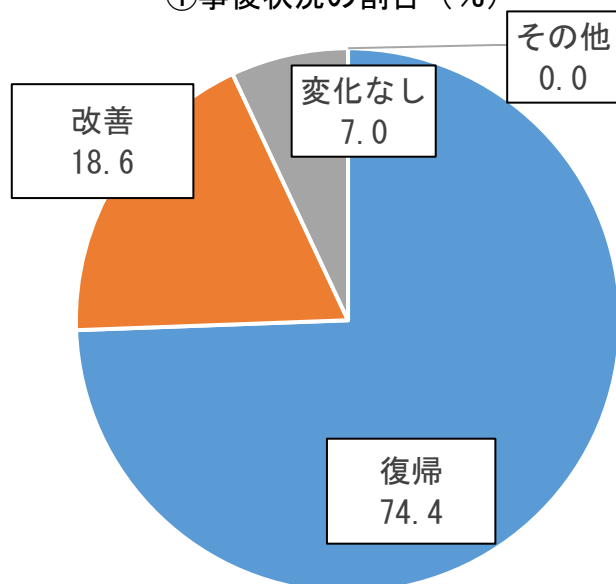
（令和8年5月調査）

※（ ）内は令和6年度の結果

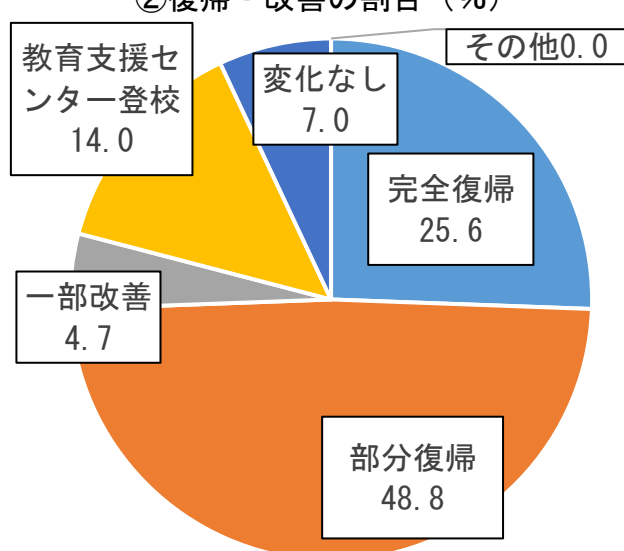
- 1 参加児童生徒人数 43 人（51人）
- 2 延べ参加児童生徒人数 145 人（175人）
- 3 参加保護者人数 30 人（27人）
※保護者オリエンテーションおよび保護者プログラム（カウンセリング）等に参加した人数。
- 4 延べ参加保護者等人数 68 人（73人）
- 5 参加児童生徒の事後状況 調査回答数43人

復帰	完全復帰	11 人	25.6 %	継続的に登校。自分の教室に行って通常の授業にいつも出席。（病気以外の欠席はない）
	部分復帰	21 人	48.8 %	①継続的に登校。自分の教室に行って特定の授業等に参加。 ②自分の教室には入れないが、行事などには参加。 ③自分の教室には入れないが、校内の適応学級や保健室で過ごす。
改善	教育支援センター登校	6 人	14.0 %	継続的に市町村の教育支援センターに通っている。所属校には登校しない。
	一部改善	2 人	4.7 %	時々市町村の教育支援センターに行くことがある。所属校には登校しない。
変化なし		3 人	7.0 %	登校と認められる場所には行っていない。
その他		0 人	0.0 %	一時的に登校したが、現在は不登校または不登校傾向。

①事後状況の割合（％）



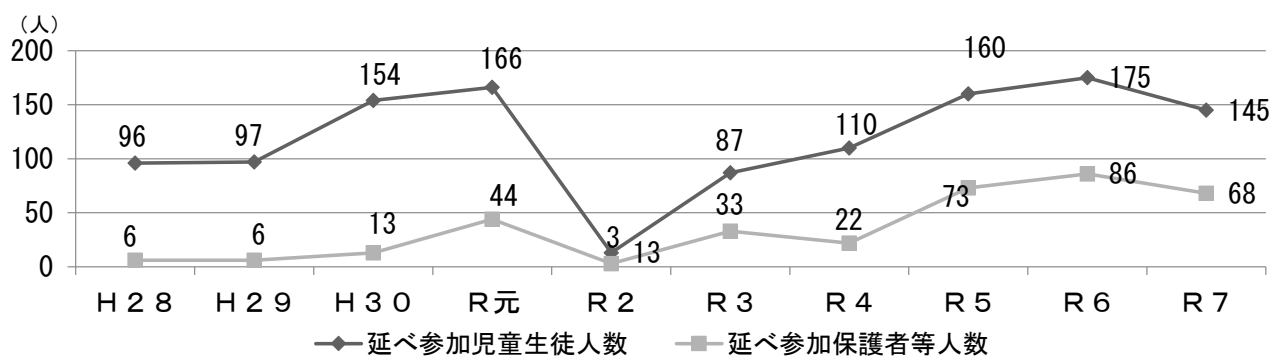
②復帰・改善の割合（％）



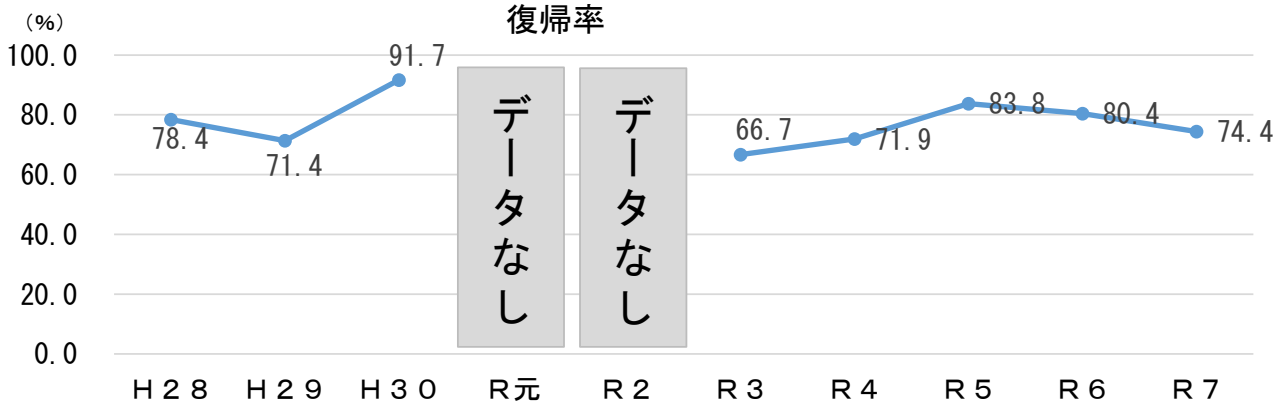
過去10年の参加・復帰状況等の推移(平成27年度～令和6年度)

	参加者数				復帰率							
	参加児童生徒 人数(実数)	延べ参加 児童生徒人数	参加保護者等 人数(実数)	延べ参加 保護者等人数	復 帰		改 善		変化無し		その他	
					人数(人)	全体に対する 割合(%)	人数(人)	全体に対する 割合(%)	人数(人)	全体に対する 割合(%)	人数(人)	全体に対する 割合(%)
H 2 8	23	96	6	6	18	78.4	2	8.6	3	13.0	0	0.0
H 2 9	21	97	4	6	15	71.4	2	9.6	4	19.0	0	0.0
H 3 0	37	154	10	13	22	91.7	0	0.0	0	0.0	2	8.3
R 元	41	166	23	44								
R 2	13	13	3	3								
R 3	35	87	15	33	22	66.7	6	18.2	4	12.1	1	3.0
R 4	32	110	12	22	23	71.9	2	6.3	4	12.5	3	9.4
R 5	66	160	40	73	31	83.8	1	2.7	5	13.5	0	0.0
R 6	51	175	27	86	41	80.4	8	15.7	2	3.9	0	0.0
R 7	43	145	30	68	33	74.4	8	18.6	3	7.0	0	0.0

延べ参加者児童生徒・保護者の人数の推移



復帰率



令和7年度「第1回はつらつ体験塾 日帰りミニキャンプ」実施状況報告

新潟県少年自然の家

	概 要																							
実施月日	令和7年5月10日（土） 日帰り																							
会 場	新潟県少年自然の家（胎内市）																							
天 候	晴れ																							
参加状況	募集人数	申込受付数	倍率		決定数		キャンセル数	実参加者数	参加率	大人／子														
	20	23	115.0%		23		4	19	95.0%	5／19														
学年別参加者数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3															
	0人	0人	2人	3人	3人	4人	2人	2人	3人															
市町村別参加者数（大人）	新潟市		新発田市		村上市		阿賀野市		胎内市															
	3人（大人0）		1人（大人1）		3人（大人1）		1人（大人0）		2人（大人0）															
	関川村		長岡市		燕市		五泉市		三条市															
	3人（大人0）		1人（大人0）		3人（大人2）		1人（大人0）		1人（大人1）															
	活動に参加した保護者5人 学生ボランティア2人																							
日 程	9:30～受付	9:45～出合いのつどい	9:50～出合いのレク	10:20～ぽっぽやきづくり	12:00～昼食	13:00～オリエンテーリング	14:30～振り返り	14:45～別れのつどい																
参加者の声	【児童生徒】																							
	・色々な人と話ができて楽しかった。 ・楽しかった。 ×9																							
	・友だちと話をして楽しいから。 ・友だちを作れて、いつもうれしいです。																							
	【満足度】																							
	<table><tr><td>アンケート項目</td><td>とても</td><td>まあまあ</td><td>あまり</td><td>ぜんぜん</td></tr><tr><td>今回のキャンプに参加してよかったと思いますか。</td><td>16</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>またこのような機会があったら参加したいと思いますか。</td><td>17</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr></table>										アンケート項目	とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん	今回のキャンプに参加してよかったと思いますか。	16	3	0	0	またこのような機会があったら参加したいと思いますか。	17	1	1
アンケート項目	とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん																				
今回のキャンプに参加してよかったと思いますか。	16	3	0	0																				
またこのような機会があったら参加したいと思いますか。	17	1	1	0																				
主催者の所見	【保護者】																							
	・最近学校では表情も暗く、クラスにもなじめていないようでしたが、久しぶりに笑顔で楽しく活動できていました。																							
	・自然を感じながら子どもと一緒に楽しく活動できました。																							
	・初めは緊張していましたが学生ボランティアさんがたくさん話かけてくれて予想以上に活動に参加することができました。																							
	・体調不良によるキャンセルが子ども4名、保護者3名と出てしまったが、スタッフと学生ボランティアが班に入って一緒に活動することにより、集団で活動する良さを感じながら活動を進めることができた。																							
・初参加の子どもが4人おり、開始前は緊張している様子が見られた。中には活動になかなか入ることができずにいた生徒もいたが、学生ボランティアにタイミングよく声をかけてもらうことで、オリエンテーリングに参加することができ、保護者にとっても喜んでもらえた。																								
・活動が進むにつれ、参加者同士でかかわる姿が多く見られてきた。別れのつどいでは、笑顔で話をしたり次のキャンプに向けて「楽しみだね」とコミュニケーションをとったりしている参加者が多かった。																								
・保護者からは、「子どもがとても元気になりました。」との声が聞こえてきた。今後のはつつ体験塾のねらいを参加者と共に共有し、学んだことを様々な場面で発揮できるように他の場面とつなげる工夫をしながら事業を進めていきたい。																								
・引き続き日帰りキャンプをとおして、はつつ体験塾の良さを参加者に感じてもらい、生きる力を高めるフレンドリーキャンプ、チャレンジキャンプへの参加意欲につなげていきたい。																								

令和7年度「第1回はつらつ体験塾 フレンドリーキャンプ」実施状況報告

	概 要									
実施月日	令和7年6月14日(土)～15日(日) 一泊二日									
会 場	新潟県少年自然の家(胎内市)									
天 候	雨									
参加状況	募集人数	申込受付数		倍率	決定数	キャンセル数	実参加者数	参加率	大人／子	
	30	24		80.0	24	3	21	70.0%	12／21	
学年別参加者数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
	0人	0人	2人	3人	2人	5人	4人	0人	5人	
市町村別参加者数(大人)	新潟市		新発田市		村上市		五泉市		阿賀野市	
	6人(大人2)		2人(大人2)		2人(大人2)		1人(大人0)		2人(大人1)	
	燕市		関川村		長岡市					
	1人(大人2)		2人(大人2)		2人(大人0)					
	学生ボランティア:5人 看護師:1人 保護者(キャンプ参加):2人 保護者(交流会参加):10人									
日 程	10:30 学生ボランティア研修会	13:00 受付	13:30 出合いのつどい・レク	14:00 館内POL	16:20 館内C	17:30～ 夕食	18:45～ グラスキヤンドルフアア	19:45～ お風呂自由時間	21:30～ 就寝	
	6:00～ 起床		7:30～ 朝食	9:00～ 海遊び		12:20～ 昼食	13:00～ 振り返り	13:15～ 別れのつどい	13:30 解散	
参加者の声	【児童生徒】 ◎友だちをつくることができ、うれしかったです。 ◎優しく出迎えてくれたり、話しかけてくれたり、ほめてくれたりしてくれて、うれしかった。 ◎友だちができたし、同じ部屋の人とも仲良くできた。 【満足度】(21名が回答)									
	アンケート項目					とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん	
	今回のキャンプに参加してよかったと思いますか。					21	0	0	0	
	またこのような機会があったら参加したいと思いますか。					19	2	0	0	
	【保護者】 ◎体験したことがないことをさせていただき、子どもの自信につながっています。「また行きたい」と本人もいつも意欲的です。 ◎子どもだけでなく親にも仲間ができた。 ◎今回はカヌー・登山ができなかったが、ぜひまた企画してください。									
主催者の所見	・雨天案での対応だったが柔軟に対応することができた。また、活動が変更された中でも「参加者同士で協力をする」という目的はおおむね達成できた。 ・普段の生活で活動量が少ないことから、疲れた様子が見られたり、慣れない環境で睡眠不足になったりしている参加者が見受けられた。7月のチャレンジキャンプに向けて参加者に体力をつけてくるように声を掛けたが、屋外での活動になるので体調第一で活動を進められるように準備を進めていきたい。 ・保護者プログラムは好評であった。次回は保護者の学びを第一に考えて、ゲストティーチャーとの事前打ち合わせを入念に行っていきたい。									

新潟県少年自然の家

新潟県少年自然の家

新潟県少年自然の家

新潟県少年自然の家

令和7年度「はつらつ体験塾 日帰りミニキャンプ in 柏崎」実施状況報告

新潟県少年自然の家

	概 要									
実施月日	令和7年9月27日(土) 日帰り									
会 場	柏崎・夢の森公園									
天 候	晴れ									
参加状況	募集人数	申込受付数	倍 率	決 定 数	キャンセル数	実参加者数	参加率	大人／子		
	20	18	90.0%	18	4	14	70.0%	5/9		
学年別	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
参加者数	0	0	2	0	2	3	1	0	1	
市町村別 参加者数 (大人)	燕市		新潟市		村上市		新発田市		長岡市	
	2人(大人1)		3人(大人0)		2人(大人2)		1人(大人1)		1人(大人1)	
	学生ボランティア:なし 保護者:5人(キャンプ参加5人)									
日 程	9:30 受付	9:45 出合いの つどい	10:00 出合いの レク	10:30 森歩き ザリガニ釣り	12:00 昼食	13:30 鹿角クラフト	14:45 振り返り	15:00 別れの つどい		
参加者の 声	【児童生徒】									
	・ザリガニや虫と触れ合ったり、拾った木で釣りをしたりして楽しかったです。									
	・自然と触れ合ったりして楽しかったです。									
	・いろいろな体験ができるので楽しいです。施設のスタッフや所員と話するのが楽しかったです。									
	・他の班の人とも話ができたり、温かく迎えてくれるのでまた参加したいです。									
	【満足度】									
	アンケート項目					とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん	
	今回のキャンプに参加してよかったと思いますか。					7	2	0	0	
	またこのような機会があったら参加したいと思いますか。					8	1	0	0	
主催者の 所見	◎敷地が広く、きれいに整備された素晴らしい環境で、参加者全員が生き生きと活動できた。 ザリガニ釣りでは、全員が釣れるように、参加者同士が協力して、声を掛け合いながら取り組む姿が見られ、子供も大人も一緒に楽しむことができた。鹿角クラフトでは、細かな作業を集中して取り組む姿が見られた。今後、計画するプログラムでも取り入れていきたい。									
	◎夢の森公園のスタッフの丁寧な対応や参加者に応じたプログラムのアレンジ方法などが非常に参考になった。参加者が体験活動をより楽しむことができるように、丁寧な説明を心掛け、状況に合わせて臨機応変に対応していきたい。									
	▲前回の新規参加者にメールを送り、続けての参加を促したが、参加がなかった。多様な学びの場の一つとして捉えてもらい、続けて参加してもらおうための具体的な方策を考えて実行していきたい。									

令和7年度「第3回はつらつ体験塾 日帰りミニキャンプ」実施状況報告

新潟県少年自然の家

	概 要										
実施月日	令和7年 11 月 15 日(土) 日帰り										
会 場	新潟県少年自然の家										
天 候	晴れ										
参加状況	募集人数	申込受付数		倍 率		決 定 数		キャンセル数	実参加者数	参加 率	大人／子
	30	28		93.3%		28		8	20	66.6%	3/17
学年別	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3		
参加者数	0	0	2	1	1	6	1	3	3		
市町村別 参加者数 (大人)	燕市		新潟市		関川村		村上市		阿賀野市		新発田市
	3人(大人1)		5人(大人1)		2人(大人0)		2人(大人1)		1人(大人0)		1人(大人0)
	三条市		長岡市								
	1人(大人0)		2人(大人0)								
	学生ボランティア:2人 保護者:実人数6人(キャンプ参加3人、保護者プログラム4人)										
日 程	9:30 受付	9:45 出会いの つどい	9:50 出会いのレク リエーション	10:20 うどん打ち	12:20 昼 食	13:30 モルック	14:45 振り返り	15:00 別れのつどい			
参加者の 声	【児童生徒】										
	・新しい友達と話したり協力したりすることができた。										
	・いろいろな人と関われるから、新しい気づきが見つかる。										
	・初めて参加して、みんなが明るくフレンドリーに接してくれたので、楽しかった。										
	・みんなとのコミュニケーションが楽しかったです。										
・うどんも美味しかったし、モルックも楽しかった。											
・うどん作りでは、みんなで分担して協力できたので良かった。											
主催者の 所見	【満足度】										
	アンケート項目						とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん	
	今回のキャンプに参加してよかったと思いますか。						14	3	0	0	
	またこのような機会があったら参加したいと思いますか。						13	4	0	0	
主催者の 所見	◎新規の参加者を温かく迎える雰囲気があり、新規の参加者から良い印象をもってもらうことができた。はつらつ体験塾のリピーターやボランティアの力が大きいと再認識した。また、「毎回自分が知らない人がいるから、毎回楽しく活動できる」「いろいろな人がいるから、新しい気づきが見つかると思う」などのアンケート記入から、リピーターにも学びを提供できていると確認できる。										
	◎うどん作りやモルックは、班の中でコミュニケーションを取りながら、協力して活動を進めなければいけないため、新規の参加者も新しい人間関係を作りやすい。日帰りキャンプは、新規参加者とリピーターが新しい人間関係が作れるような活動を準備していきたい。										
	▲新規に申し込んだ参加者への事前連絡を工夫する必要がある。参加者の様子や事前確認をすることで、新規の参加者も参加しやすくなると思う。日程の勘違いで不参加となった人もいたので、新規の参加者には、前日に電話連絡をする。										

令和7年度「第3回はつらつ体験塾 フレンドリーキャンプ」実施状況報告

新潟県少年自然の家

	概 要									
実施月日	令和7年12月13日(土)～14日(日) 一泊二日									
会 場	新潟県少年自然の家(胎内市)、イオンモール新発田(新発田市)									
天 候	曇時々雨									
参加状況	募集人数	申込受付数	倍率	決定数	キャンセル数	実参加者数	参加率	大人／子		
	30	22	73.3%	22	1	21	70.0%	13／21		
学年別 参加者数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
	0人	0人	1人	2人	1人	9人	2人	2人	4人	
市町村別 参加者数 (大人)	新潟市		長岡市		燕市		関川村		新発田市	
	6人(大人3)		3人(大人1)		2人(大人3)		2人(大人2)		2人(大人1)	
	村上市		三条市		阿賀野市					
	3人(大人2)		1人(大人1)		2人(大人0)					
	学生ボランティア:5人 看護師:1人 保護者:13人 (交流会11人 キャンプ2人)									
日 程	13:00～ 受付	13:30～ 出 会 い の つ ど い・レク		15:00～ クリスマスツリー飾り つけ		17:30～ 夕食	18:30～ 点灯式	19:30～ お風呂 自由時間	21:30～ 就寝	
	6:00～ 起床	7:30～ 朝食	8:30～ 電車に乗ってランチ			12:50～ 振り返り	13:00～ 別れのつどい		13:10 解散	
参加者の 声	【児童生徒】 ◎班の人と一緒にランチやクリスマスツリーの飾りつけをするのがとても楽しかった。 ◎みんなで飾りつけたことが楽しかったし、ひょうたんで作るのが楽しかった。 【満足度】(21名が回答)									
	アンケート項目						とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん
	今回のキャンプに参加してよかったと思いますか。						20	1	0	0
	またこのような機会があったら参加したいと思いますか。						19	2	0	0
保護者の 声 (キャンプ参加、保護者 プログラム)	【保護者】 ◎改めて今の自分の想いを話したり他の人の意見を聞いたりすることができて良かった。 ◎通信校の情報が聞けて良かった。 ▲スタッフが何名かいたほうが良いように思う。名札を付けた方が話しやすいと思う。 【満足度】(キャンプ参加2名、保護者プログラム参加11名が回答)									
	アンケート項目						とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん
	今回のキャンプに参加してよかったと思いますか。						13	0	0	0
主催者の 所見	◎全員で協力してツリーを飾りつけ、点灯式で喜び合うことができ、「仲良く」「協力」というねらいを十分に達成できたと感じている。 ◎「電車に乗ってランチ」では、保護者がいない中で初めて班の仲間と切符を買い、電車に乗り、昼食を食べた児童がおり、充実感、達成感を大いに感じる活動となった。 ◎学生ボランティアが参加者へのメッセージを1日目に書き終えたおかげで振り返りの際に手渡しをすることができた。自己有用感の高まりに役立ち、肯定的な評価が多かった。 ▲途中参加、事前に申請はされていたものの宿泊をせずに帰宅する児童生徒が計4名いた。参加、宿泊に対する不安を少しでも解消できるように手立てを考えていきたい。									

令和7年度「第3回はつらつ体験塾 チャレンジキャンプ」実施状況報告

	概 要								
実施月日	令和8年1月 17日(土)～18日(日) 一泊二日								
会 場	新潟県少年自然の家								
天 候	晴								
参加状況	募集人数	申込受付数	倍 率	決 定 数	キャンセル数	実参加者数	参加率	大人／子	
	30	23	76.7%	23	4	19	63.3%	16／19	
学年別 参加者数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
	0人	0人	2人	1人	1人	6人	3人	3人	3人
市町村 別 参加者 数 (大人)	新潟市		長岡市		燕市		関川村		阿賀野市
	5人(大人5)		5人(大人1)		1人(大人2)		1人(大人2)		2人(大人1)
	村上市		三条市		胎内市		新発田市		
	2人(大人2)		1人(大人1)		1人(大人1)		1人(大人1)		
	学生ボランティア:3人 看護師1人 保護者:16人 【うち、保護者プログラム参加:15人】								
日 程	13:00～ 受付	13:30～ 出会いの つどい・レク	15:00～ 薪づくり 体験		17:30～ 夕食	18:30～ お楽しみ昼 食会準備	19:30～ お風呂 自由時間	21:30～ 就寝	
	6:30～ 起床	7:30～ 朝食	8:30～ 買い出し	10:00～ 昼食づくり片付け・休憩			13:15～ 別れのつどい	13:30 解散	
参加者 の 声	◎薪づくりも昼食づくりもみんなで協力して目標を達成できてよかったです。 ◎薪を切るのが大変すぎてもっと体力をつけないといけないと思いました。 ◎少し寒かったけどそれも楽しかったです。 【満足度】(19名が回答)								
	アンケート項目					とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん
	今回のキャンプに参加してよかったですか。					18	1	0	0
	またこのような機会があったら参加したいと思いますか。					18	1	0	0
保護者 の 声 (保護者 プログラ ム参加 者)	◎子どもが慣れてきて、自分から友達に話しかけるようになってとても嬉しい。(参加保護者) ◎このような場があって良かった。(ワークショップ) ◎今年度からのワークショップとても良かったです。リフレッシュできるのでぜひ続けてほしい。 【満足度】(16名が回答)								
	アンケート項目					とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん
	保護者ワークショップに参加して良かったですか。					15	1	0	0
主催者の 所見	◎働くことを考えるきっかけとなり、達成感を感じることができるよう薪づくりの活動を取り入れた。寒空の中で目標に向かって活動する姿が見られ、達成感を感じることができた。普段少食な参加者も夕食時に完食していた。 ◎お楽しみ昼食会にかかわる一連の活動では、参加者同士が積極的にコミュニケーションをとる姿が多く見られ、全ての活動班で時間内に話し合いや調理を終え、会食を楽しむことができた。中学生がリーダーシップをとり、全員でやり遂げる充実感を味わうことができた。 ◎保護者ワークショップは OB の保護者から話をしてもらったが、共感や新たな視点をもつことができたことから、好評であった。継続してほしいとの声を多数いただいた。 ▲申し込み時点で予定されていたが、1日目の途中で帰宅する中学生が2名いた。見通しの持たせ方や活動量、宿泊に対する不安感の解消などの手立てを講じ、全日日程で参加できるように働きかけていきたい。								

Ⅱ 推進委員会

不登校児童生徒体験活動推進事業「はつらつ体験塾」推進委員会設置要綱

【設 置】

- 第1条 不登校児童生徒体験活動推進事業「はつらつ体験塾」を効果的に推進するために、不登校児童生徒体験活動推進事業「はつらつ体験塾」推進委員会を（以下「推進委員会」という。）を設置する。

【協 議】

- 第2条 推進委員会は、次に掲げる事項について協議する。
- (1) 事業の推進計画の策定に関すること
 - (2) 事業の実施・運営に関すること
 - (3) その他、必要なこと

【構 成】

- 第3条 推進委員会は別表に掲げる委員及びオブザーバーをもって構成する。
- 2 推進委員会には、委員の互選による委員長及び副委員長を置く。

【委員の任期】

- 第4条 委員の任期は、当該年度とし、再任を妨げない。

【会 議】

- 第5条 会議は、新潟県教育庁生涯学習推進課長が招集する。
- 2 委員長は、推進委員会の議長となる。
 - 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故ある時は、その職務を代理する。
 - 4 委員長は、必要があると認めたとき、推進委員会に委員以外の関係者の出席を求めることができる。

【事務局】

- 第6条 推進委員会には、協議事項をあらかじめ整理するため、別表に掲げる事務局を置く。

【庶 務】

- 第7条 推進委員会の庶務は、新潟県教育庁生涯学習推進課 少年自然の家分室において処理する。

附 則

- 1 この要綱は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 令和7年3月31日一部改正、同年4月1日から施行する。

令和7年度不登校児童生徒体験活動推進事業「はっらっ体験塾」
推進委員会 名簿

○ 推進委員

	名 前	役 職
1	臼井 政之	聖籠町立山倉小学校 校長
2	庭田 雅範	阿賀野市立水原中学校 校長
3	内川 未奈希	新潟県教育庁高等学校教育課 副参事 指導主事
4	小室 謙司	県立教育センター 指導主事
5	藤塚 静治	新潟市教育相談センター 所長補佐
6	佐久間 義久	新潟県少年自然の家 所長

○オブザーバー

	名 前	役 職
1	笠原 崇	新潟県教育庁生徒指導課 副参事
2	樋熊 綾子	国立妙高青少年自然の家 企画指導専門職
3	相澤 文哉	国立妙高青少年自然の家 事業推進専門職

○事務局

	名 前	役 職
1	庭野 敦史	新潟県教育庁生涯学習推進課長
2	宇佐美 崇	新潟県教育庁生涯学習推進課 青少年家庭教育課係 副参事 社会教育主事
3	笠原 崇史	新潟県教育庁生涯学習推進課 少年自然の家分室 副参事 社会教育主事
4	須田 洋介	新潟県教育庁生涯学習推進課 少年自然の家分室 社会教育主事
5	保坂 吉彦	新潟県教育庁生涯学習推進課 少年自然の家分室 社会教育主事

はつらつ体験塾 推進委員会 議事録

期日：令和7年10月16日（木）

時間：14：00～16：00

会場：県立生涯学習推進センター
ZOOM オンライン開催

委員：臼井政之、庭田雅範、内川未奈希、小室謙司、藤塚静治、
佐久間義久

オブザーバー：笠原崇、樋熊綾子、相澤文哉

事務局：庭野敦史、宇佐美崇、笠原崇史、須田洋介、保坂吉彦

（1）挨拶（新潟県教育庁生涯学習推進課長）

皆さん、本日はご多用のところ、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
また、日頃ははつらつ体験塾の実施にあたりましては、ご理解とご協力を賜りまして、この場を借りまして御礼申し上げます。現在、全国的に不登校の児童生徒が過去最多となり深刻な社会問題ということになってますが、新潟県でもこの教育課題に長年取り組んでおりまして、平成9年度からはつらつ体験塾をスタートさせ、支援を続けてまいりました。今年度で29年目を迎えます。ご存知のとおり、新潟県少年自然の家はこの4月から指定管理者制度が導入されましたが、はつらつ体験塾は、県の重要な取り組みとして、引き続き、県職員が中心となり県教育委員会主催として実施してまいります。今後も体験活動を通じた学びを効果的に提供できるよう、皆様のお力添えをぜひよろしくお願いしたいと考えております。本日は限られた時間ではありますが、事務局からの提案に対して建設的なご意見をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

（2）自己紹介

（3）委員長・副委員長選出

事務局より提案 委員長 庭田 雅範さん 副委員長 臼井 政之さん
承認を得た。

（4）議事

①報告

ア はつらつ体験塾について（事業の説明）

イ 令和6年度 はつらつ体験塾 実施状況報告

ウ 令和7年度 はつらつ体験塾 実施状況報告

エ 令和7年度の成果と課題

内川：私は、平成の時代からこの推進委員を務めさせていただいているんですけども、柔軟で多様性のあるプログラムだなと思ってお話を聞いておりました。例えば、保護者も元気を取り戻すようなワークショップとか、あと、中国籍の大学生がボランティアに参加してくださるとか、本当に新しい取り組みであるなと思いました。質問としては二点あります。一つ目が復帰率についてです。令和5年度が31人、令和6年度41人という報告があったかと思います。不登校の子たちは全国的に増えていますが、はつらつ体験塾に参加した子たちは、学校への復帰率が高まっています。この部分はどのように事務局の皆さんが分析をされているのかなという部分と、もう一つは、アンケートについてです。復帰率等をはかるためのアンケートは、回収率が70%台、こちらは郵便でやっていたのかということです。後半の生きる力の調査については、QRコードだったと思うので、郵便だったのかなってということが気になったのと、アンケートの選択肢の項目、保護者のアンケートで、10名がポジティブな回答なさってましたけど、そのアンケートの選択肢はどんな風になってたのか気になりましたので、聞かせていただきました。可能な範囲でお答えいただければと思います。

事務局：アンケートについては、郵送でやっています。なかなか戻ってこないで電話を繰り返して、ここまでの数字になりました。前回よりは相当良い数字かなと思います。51人中でこの数字なので、何とか上げていきたいと思っています。復帰数については増えているのですが、要因の分析は難しいというのが本音です。あえていうならば、この数字はもともと参加者が、すでにもう学校に通っている子たちもいるので、高い数字が出てるとするのは事実としてあります。それとの関連という所まで分析はできていないのが現状です。そこまで踏み込んで分析できるように頑張っていきたいなと思います。保護者アンケートのあの選択肢の項目についてですが、「はい」「普通」「いいえ」の3項目でございます。全員が、「はい」「はい」「はい」という風に答えていただいたというのが選択肢の項目の「はい」の部分になります。アンケートも本当に私自身も難しさを感じていて、聞き方というののも考えていかなければいけないかなと思います。項目の他にも、記述欄を必ず設けるようにして、その感想の部分も丁寧に聞き取って、事業に対して分析をしていけたらいいと捉えております。

内川：ちなみに、復帰率をとったアンケートについては、郵便というのは非常に良いと思います。最近QRコードのアンケートが非常に多いです。けれども子どもたちは手紙を書くとかその紙のアンケートに答える郵便を出すという、そういう経験がどんどん減ってきていると思います。郵便物を投函するのは保護者かもしれませんが、あえて複数の手段でのアンケートを取るっていうのは、私はあえてそれで良いのではないかと思います。あと、そのアンケートの選択肢については、誘導にならないものが、本当は良いと思います。ただ、県の事業でやっていると、アンケート結果はいろいろな所に使われると思うので、客観的な内容が好ましいような気もしますが、事務局の皆さま

んがこの事業を継続するためにできるだけ良い結果が欲しいということもわかりますので、お互い悩ましいですね。

白井：リピーターのことについてお聞きしたいです。リピーターの来る率が高くなっていることはものすごい成果だと思います。またいきたくなくなるとかなぜまた来たいと思ったのか、子どもたちはどんな感じで答えてますでしょうか。このリピーターのいきたくなる要因というのが、広まるきっかけになるかなと思ったので、そのあたりを教えていただけますでしょうか。

事務局：はつらつ体験塾に参加することで、新しい出会いがあって、学校や年齢を飛び越えた集団が出来上がります。また、先ほども話しましたが、先週末に、はつらつ体験塾参加者が、家族ぐるみで自然の家を利用する方がいました。本当にリピーターの方に助けられてる部分がたくさんあります。リピーターになっていただいている部分をもう少し分析ができれば、おそらく新規の方とかも増えていくと思います。

白井：今のお話を聞いて、もともと孤立感とか、そういうものを感じている子がいたとしたら、所属欲求というか、そのあたりが非常に満たされる活動だと聞いていて思いました。そのあたりが新しいことに挑戦する意欲にもつながるだろうし、人とうまく関われたということの自信が次の行動に結びつくなと思って聞かせていただきました。ありがとうございます。

佐久間：私が見ていて思うのは、はつらつ体験塾に来る子どもたちというのは、そこそこ意欲を持っている子どもたちだと思っています。そういう意味では意欲があるんだけどやっぱり付き合い方がうまくないとか、あまりにも言葉がちょっと直球だとか、行動がストレートすぎるなっていう子どもが、はつらつ体験塾に来る子どもたちの中に多いと感じています。それによって、多分普段学校や地域の中において、なんかうまくいかないとか、生きづらさを感じているんだろうなと思います。そういうことから、なかなか学校にいけないとか、クラスで馴染めないと感じているなど、そういう様子を感じます。そういう意味では、このはつらつ体験塾に来て、リピーターの子どもたちは、回数を重ねる中で非常にソフトな口当たりで話すとか、相手の気持ちを押しはかってから話すとか、そういう行動というのができるようになっていっていると思います。はつらつ体験塾に来る子どもたちが復帰率を高めるというのは、人との付き合い方、話し方、行動の仕方を学んでいく中で高めていると私は感じています。また、そういう子どもたちですので、次もいきたいというやる気が非常にあるということです。やっぱりリピート率が高いんだと思っています。ただ、はつらつ体験塾に来られない子たちに対するアピールはどうするのかとか、そういう子たちをもっと呼びたいという話を事務局がよくしているので、そういう部分についても、また皆さん方からお知恵をいただけるのであれば、事務局が新た

な展開をこれからまだ考えていけるのではないかなと思っています。そういうご意見もお聞かせいただければということをお伝えいたします。

藤塚：二つお願いします。一つ目は、広報活動を兼ねて適応指導教室へ訪問したということがございましたが、年度が変わったので、ちょっと伺いづらいところもありますけれども、手応え的にはどうだったのかということが知りたいなと思いました。二つ目はチャレンジキャンプのお話を伺いまして、テント設営を自分たちの力でやり遂げたというお話、大変素晴らしかったんですけど、ボランティアの方など大人が結構いたと思いますが、その方々は実際に何もしていなかったのかという部分が知りたいです。お願いします。

事務局：出前指導は、三条の方にお邪魔しまして、指導員の方も含めまして、一緒にモルックをやりました。その中のお子さんには、その前の日に自然の家でやっていた主催事業にお見えになってたお子さんもいました。「昨日も会ったね」みたいな感じで、楽しそうにやってくれました。ただその場は楽しいですし、良い雰囲気終わるんですが、その後、その方たちが、はつらつ体験塾に来ていただけるかということとそこまではなっていません。実際私がいったところは正直来ていないです。あとは場合によっては、当初 10 人ぐらいの予定でお邪魔した適応指導教室なんですけど、実際いってみたら、天候の不順とか様々な要因で一人か二人しかいらっしゃらないというときも正直あるんです。それでもお約束したので、当然伺いました。少人数のところでも一生懸命レクリエーションをやって、その都度メニューを考えながらやってはいます。それなりに手応えはあるんですが、一番の問題はその方たちが、実際はつらつ体験塾を知っていただいて来ていただけてるかといったら、それほど多い数の方が来てるというわけではありません。それが現状です。二つ目のチャレンジキャンプなんですけど、実際テントの設営をしているとき間のボランティアは二人のうち一人が保護者プログラムへいって、もう一人の方が中国籍の方で、あと私がただけです。私たちは、ほとんど手出ししてません。すべて自分たちで頑張ってテント設営をやりました。ただ、後半は小学生の低学年の方もいらっしゃるので、中学生の方が手伝ったりするとかそういうのはありましたけど、大人が何かしたことはないです。私は、怪我をしないように見てるだけです。聞かれたら答えたこともありましたけれども、お子さんたちが自分の力でやったといっても間違いではないです。

藤塚：大変よくわかりました。キャンプのことについては、聞かれたら答えたときもあったということを伺って、それは良かったと思ってます。ありがとうございました。

庭田：フレンドリーキャンプの結果で、参加者に大きな差異は見られなかったという話ですが、その一回一回でその差がなかったのかなということだと思いますが、例えばリピ

ートした子が一回目と何回か繰り返した後のその事後で変化がなかったかという見方はされているのかしてないのかを教えてください。例えば一回目の事前と例えば3回参加したときに、3回目の事後で変化があれば数回参加すれば変化する。一回では変化がないかもしれないけど、数回参加すれば変化があるという結果が見れば。それは何か効果があると今後アピールに使えるんじゃないかと思います。そういう見方をされているかどうかでしょうか。

事務局：単発でしかまだデータを取れていないので、ご指摘いただいたような分析の仕方では今後見ていけると、確かに何か見えてくるものもあると思いました。ありがとうございます。

②協議

庭田：協議題は、次の二つです。

家にいる時間が多い児童生徒への効果的なアプローチの方法について。

将来の生活への不安を和らげる体験活動のアイデアについて。

それでは一つ目の家にいる時間が多い児童生徒への効果的なアプローチの方法についてアイデア、考えがある方はどんどん意見を出していただければと思います。お願いします。

臼井：さっき聞けばよかったのかもしれないんですけども、これに参加しようと思う子供たちはどういうきっかけでこれに参加しようと思うのかなと思いました。それは、例えば学校側の働きかけなのか、何かのつながりがあって「いくといいよ」という口コミでなのか、どういう風なきっかけで来てみようと思ったかっていうのが、新規の人を増やす何かしらの手立てとしてあるのかなと感じたんですけど、そこはいかがでしょうか。

事務局：アンケートに、はつらつ体験塾を何で知ってご参加いただいたんですか？という項目があります。具体的な数字までは出していなくて申し訳ありませんが、多いのは学校からのチラシというのが一番多いです。もしくは適応指導教室、教育支援センターさんの方からの紹介、その二つがやはり多いと事務局では捉えております。

臼井：今のお話から考えると、お家の方同士のつながりや口コミとかで来てるわけではなくて、学校との信頼関係で、この先生からいわれたならいってみようかなって、やっぱり学校の信頼関係というのが非常に強いのかなと思ったので、誰から誘われるかっていうのが結構大きいんだろうなと思いました。

私としては、親同士のつながりとかで、「あれいくといいよ」とかそういうのあるのかなと思いました。そういうことではなさそうな雰囲気があるので、そっちというよりも学校関係者やそういった支援機関からのプッシュが大きいということだと思うの

で、そこをどう強めるかって話になるかなと思いました。

相澤：私、全然違ったキャンプなんですけども、去年ちょっと外国人籍のお子さんを集めてキャンプをやりました。その際も同じように保護者を集めて座談会みたいなものを開きました。はつらつ体験塾では、保護者のワークショップなどがあって、とても良い取り組みだと思いました。先ほどの方の意見とは真逆になってしまうかもしれませんが、やっぱり保護者にアプローチするのも大事なのかなというのは思いました。保護者もどうかしたいっていう気持ちが絶対にあるかなと思うので、その保護者にどのように伝えていくかというのが結構大事なかなと思います。私も先ほど、それぞれの地域の適応指導教室に足を運ばれてちょっと体験をしたっていうのもすごく興味と関心を持ちました。そういうところからどれだけお家の方とか保護者につながって、こういうこともやってるんだっていうのがあれば、じゃあちょっと試してみないかということで、もしかしたら足が向いて、子どもさんが参加するのかなっていうのは、一つあるんじゃないかなと思いました。

藤塚：先ほど伺いました現地への広報活動の出前指導についてですが、大変素晴らしいことだと思って聞いてたんですが、その参加者にも参加人数にもよるとお話ししていましたが、そういうことをすることではつらつ体験塾はこういうことをやるんだなということが少し分かって、安心していってみようかなと感じると思います。だからとても良い活動だと思って聞いていました。少しずれるんですけど、今回そのはつらつ体験塾に参加を促すこと、効果的なアプローチということではあるんですが、そこには元気な子たちがまあ結局来るんだというような話もあるんですけども、頑張って適応指導教室に来たその子たちの所に、自然の家の皆さんが伺って、レクリエーションができたということが素晴らしいことではないかなと私は思います。だから自然の家にはいけないけれども、その手前でも外に出られた子がそういうことを味わえたということが何よりも素晴らしいことだと私は思いますし、そういったことが重なっていくことで、もう一歩外に出てみようかなと考えるかもしれないんで、これは新規の方が、すぐにいいなあと思って飛びつく人もいるかもしれないんですけども、非常に地道なことでもあるのかなと思って伺ってました。だから、この広報活動、出前指導は今後も続けていくと良いと思って聞いていました。

小室： わからないところもあるので教えていただきたいんですが、はつらつ体験塾の案内を例えば親の会とか各地に市町村あると思うんですけども、不登校児童とかの親の会とかに配付していなければ、そういうところにも周知をかけるのも良いと思いました。当センターにも相談に来る方で、電話で親の会っていうのも初めて知ったとか、ぜひいってみたいという親御さんもいらっしゃいます。何かこういう情報も全く知らない方が、悶々と家ですごく不安になっているって方が多いです。そういったところにも、つながりがあるのであればと思いました。あとチラシですけども、

案内文書、ポスターというか、リーフレットというかチラシに、また復帰率とかも書いてあって良いと思います。提案なんですけど、参加児童生徒の声はあるんですけども、多分ご覧になるのは保護者の方が多いと思うので、保護者の方ですごく肯定的な意見を寄せられた方から、「こんな良い会ですよ。ぜひ皆さん、参加したらどうでしょうか？」というような声、これも載せてもいいのかなと思いました。

事務局：はい、ありがとうございます。まず親の会に向けてという広報については行っておりません。今後、広報先の一つとして考えていきたいと思いつつご意見を伺っていたところでございます。また、保護者の声をご紹介するというのは、確かに私たちにはない視点でしたので、出し方というのものもあるとは思いますが、何らかの形でご意見を反映させて、広報活動に活かしていきたいと思いました。広報の仕方というものに、私たちも攻めあぐんでいたところもありました。第3回はつらつ体験塾は、今日から募集開始になるのですが、チラシとは別にポスター形式にしてみようかと自分たちなりの工夫はしてはいるんですけど、今ご意見いただいたような直接出向くことの大事さとか、その学校の先生から紹介してもらえそうなシステムとか、担当の方から紹介していただけるようお願いの仕方ですとか、親の会にも広報をかけるなど考えていきたいと思つてます。それから本人の声も大事ですけども、やっぱり保護者の声をもう少し活用していくというあたりについては、本当にありがたいなと思いました。出前指導のことについては話が合ったとおり、実際にいっても参加していないっていうところに、自分たちの広報の仕方が悪かったのかなとか反省はしていたんですけども、そこに参加できたことで、自信になっているという声も確かにいただいております。私も実際去年いって10人参加予定が一人だったという適応指導教室もあったんですけども、人数も少ないので、一緒にいろいろとやり取りしながら活動ができて、すごく満足感があって後からお手紙いただくようなこともあったりしました。はつらつ体験塾に参加できるというだけでなく、その参加してくれた方の生きる力、そして、様々な学びの場に出ていこうとする意欲を高めるというところに寄与していると考えたら、やはり出前指導というのやりがいがある、というか、本当にまた頑張りたいなという思いになりました。本当にありがとうございます。

庭田：広報の仕方っていうようなところかなと思いますが、例えばチラシ等は、ホームページ等ですぐダウンロードできるのでしょうか。

事務局：はい、そのようになっております。

庭田：そうしますと、学校で必要になったときに、紙面で回ってくるだけでなく、すぐにホームページからダウンロードして、例えば保護者に紹介するとか、そういったこともできるということ、そういったところも教職員にどんどん理解してもらおうと、一

つの広報の場になっていくのかなと思いました。

続いて二つ目の協議題に移りたいと思います。将来の生活への不安を和らげる体験活動のアイデアについて。これについては、皆様からアイデアをいただきたいと思います。よろしくお願いします。

藤塚：はい、お願いします。先ほど質問したテント設営のところだったんですけども、子どもたちが力を合わせて取り組めるということはとても大事なことですし、そのお互いにまた助け合うということもできることがとても良いことだと思います。自分たちの力でやれるという充実感もあるということとはとても良いと思って聞いていました。そのチーム内でも助け合いというのがあると思いますが、困ったときには声を出す、それから、自分たちでできないことはどうしようかと思って、周りの人に聞いてみる。先ほど、聞かれたことは答えたというふうにお話しいただきましたけれども、援助というのでしょうか、それができるような活動にするといいのかなと思います。だからといってどのようにすれば良いか、具体的にはいえないんですけど。そういう力が少しでもついていくと将来の生活への不安を和らげるということの一つになるのかなと思って聞いておりました。それから、OBの話というのがあるって、これについても今回保護者の皆さんへということで、先を見通せない不安を保護者の皆さんはずっと持っていたと思います。でも、その先のゴールみたいなものがあるんだということがOBの話で分かったときに、将来の展望というか将来の希望というのでしょうか、そういったものが持てたんじゃないかなと思うのです。なので、親御さんたちは将来の生活への不安がそれで和らいだのかなと思いますけど、それは、例えばお子さん方も話が聞けるときがあるといいのかなと思いました。これについてはどこでもやっていることなのかもしれないんですけど、私たちのセンターでも、中学校3年生を対象にこのセンターから高校進学したOBの方を呼んでお話を聞いたりしています。それから新潟市では居場所づくり合同相談会というのがあり、フリースクールの方々が集まったりするんですけど、そこに保護者さんが来るんですけど、そこでも実体験したOBの方々がお話をされて、保護者と子どもが話を聞いています。それで少しく悩んでいたことが薄くなったといいますか、不安が少し解消されたといったらいいいのでしょうか、そういったものもあったので、OBのお話を聞く活動を取り入れていращやるというのはとても良いことだなと思って聞いておりました。付箋でカテゴリーがあったと思いますが、その内容がちょっと分からなかったんですけど、そういうところが、先ほどの援助希求の話にもつながったりするかなと思っていた次第です。

臼井：将来の生活への不安という話なんですけれども。もう少し具体的に、これは将来の生活って就労のことに關してなののでしょうか。その漠然とした不安なのか、その不安というものの具体がちょっと見えなかったんですけど、例えばですね、中学生ぐらいで就労に対する不安があるということであれば、中学校では職場体験をやってるわけです。今だとアントレプレナーといって、いろいろな人から来てもらって話すっていう

のをやってるわけなんです。例えば、何かそのお仕事体験的なものが何らかの形でそういう人から来てもらって体験活動としてやれたりする。単純ですけども、そういうことも、就労ということが不安なんだとしたら、そういう方に来てもらって話してもらおうとか、実際に体験してもらおうとかというのはあるのかなと単純に思いました。

事務局：はい、ありがとうございます。今ご指摘いただいたとおり中学生の保護者さんは結構就労っていうあたりが強いのかなと思います。あと、やっぱり小学生の保護者さんになると漠然としたこの子、将来生活していけるのかしら、というような、そういう不安が大きいのかなと思います。非常に多種多様です。まとめるのもなかなか大変ですけども。ただ、年齢が上がっていけば上がっていくほど、この子はどんな仕事ができるんだろうかと不安になるという声が多くなっております。

内川：はい、お願いします。確かにその将来の不安っていうところを、まあいろいろな漠然としたものだったり、就労だったりがあると思いますけれども、私が最初に思った将来の不安を持っているのは、子どもたちプラス保護者だと思うので、保護者に対するワークショップ等々は、今後かなりニーズがあるのではないかなと思いました。子どもたちに関しては臼井校長先生もおっしゃったように、職場体験とかですかね。今も農業体験みたいなことをやってらっしゃると思いますが、実際に外にいったり何か体験する地域のボランティアのようなものに参加するとか、そういうことも可能だと思います。あと、生活スキルを上げるという意味で、本当に包丁を使うとか、火を使うとか、本当に基本的なライフスキルの体験というものもきっと子どもたちに必要なんだろうなと思いました。そういう体験の時に自分の強みはこういうところとか、自分の例えば適性とかそんな自己理解を深めるようなワークなり何か活動があってもいいのかなと感じました。

庭田：いろいろな活動がある中で、その自己理解を深めるというところが意図的に仕組みられていけばいいというご意見だったかなと思います。

樋熊：はい。お願いします。先ほどの自己理解のお話があったんですけども、妙高自然の家でも、あの長期キャンプということで、今年度は7泊8日で困難を抱える子どもたちも参加する統合型キャンプというのをいいました。家族から離れて自分たちで料理を作ってテントを立てて、自分たちで計画を立てて、最後妙高山と火打山の縦走登山をするんですが、やっぱりその中で、自分の弱さとかかなりたい自分に向かって、お互いにぶつかり合いながらも成長していくんですけども、なかなかチャレンジするのは難しいかもしれないんですけど、このはつらつキャンプの方に参加しながら、私たちの長期キャンプに参加していただけるのも良いかなと思います。

相澤：合わせて、私は今回長期キャンプには参加していなかったんですけども、はつらつ体験塾のキャンプの中にも登山があったりとか、野外炊事などもありますので、もちろん私たちのキャンプにも参加してもらえればという部分もあるんですけども、このそれぞれのフレンドリーキャンプとかチャレンジキャンプの中身も見ても自己理解であったりとか、自分の弱さにチャレンジするっていうプログラムがいくつかあるので、そういったところを精査とか整理したりとか、そういった部分ができればさらに自信を持って、その後の人生であったりとか、次の学校に向けたっていう部分でつながっていくのかなと思います。今年は登山が雨でできなかったっていう話もお話もいただいていたので、ぜひ来年度は晴れて登山ができればと思っています。

庭田：はつらつ体験塾の中にも、その自己理解を深める場面は十分あるんじゃないか。それをもう少し、強い意識を持たせてもいいのかなというご意見かなと思います。

笠原：よろしくお願いします。小学校の教員ですので、あまりこの就労とかの方は強くないんですが、小学校の子どもたちの中には、自信がない子どもたちに不登校の子が多いと感じています。その中で、昨年度、教育の日のイベントで、子どもディスカッションをした中で、その中に二人不登校の生徒が参加していました。実はそれをオンラインで参加していた不登校のお子さんを持つ保護者の方から感想を寄せていただいて、その不登校の参加者の子が意見をしっかりと述べている姿を見て、大変勇気づけられてうちの子もその姿を見て、とても自信を持っていきいきと表情が良くなったのがわかったという感想を寄せていただきました。先ほどはつらつ体験塾のOBの方が参加して保護者の方にお話をされたっていうのは、とても良いことだなと思っていました。もし可能であれば活動のボランティアとかそういったOBの方が参加してもらったりとか、触れ合うような場所があって、子どもたちがその自分のロールモデルじゃないんですけども、同じように不登校を経験した人が今ああやって生き生きと活動しているってことは、あの子どもたちの将来、やっぱり自信につながるのではないかなというのを感じましたので、提案させていただきました。

庭田：そのOBの姿を保護者だけでなく、子どもにもというご意見かなと思います。それに関して私自身のちょっと考えもいわせてもらいたいと思いますが、やっぱりその参加していたOBが改めて戻ってきて参加することによって、その次のステージで元気に生活している姿を見るとやっぱり自分もそうなれるかなというような自信や不安解消につながるのではないかなと思いました。

それでは、二つ目の協議題、将来の生活への不安を和らげる体験活動のアイデアということで、またたくさんのご意見いただきました。これに関して事務局からありますでしょうか。

事務局：どうもありがとうございました。本当に漠然としたテーマで、本当にご苦勞をおか

けしましたが、たくさんご意見いただけて非常に助かりました。はつらつ体験塾は、中学校3年生までが対象なので、高校生になったら参加できないというのが現状なんです。今のお話を聞くと、ロールモデル的に参加していただくというのは、私たちの目的の達成のために有効に働くのではという可能性を非常に感じました。持ち帰らせていただいて、そのOBの子たちとの連携や、今の子どもたちを伸ばしていく効果的な連携の仕方について考えていきたいなと思いました。また、自己理解を深めるような活動というところで本当にはつらつ体験塾、一泊二日ではあるんですが、正直、生活スキルの部分っていうのは結構充足して活動としては当てられているのかなということは、私たちの手応えとしてはあります。しかし、臼井校長先生からいただいたような地域に出ていくとか、内川先生からもいただいたんですけども就労関係とか、お仕事っていうあたりは少し考えていってもいいのかなというふうに思っています。キャリア教育の視点と申しますか、そういったところも入れて活動を組んでいく可能性も必要かなと思いました。妙高のキャンプへの参加というのは、前にも実例があったことでございまして、事務局の宇佐美からも話を昨年いただいていた。私たちは、はつらつ体験塾に参加して、また別の学びの場ということを目的としているので、社会教育施設の連携とは別に、この事業の目的の達成のために紹介できるような場面があれば、子どもたちに情報提供していきたいと考えました。ありがとうございました。

庭田：ありがとうございました。はつらつ体験塾ですが、本当に工夫してやっていただいていると思っております。また、今日もあのいろいろなご意見が出ました。これをもとにして、また活動がより良くなっていくことを、また我々も願いながら活用させてもらいたいなと思っております。ありがとうございました。皆さん、本当に積極的なご意見ありがとうございました。これで議長を退任してマイクを事務局にお返ししたいと思います。それでは事務局よろしく申し上げます。

事務局：議事の進行、大変ありがとうございました。また、皆様からは、様々な視点からたくさんのご意見をいただきました。本当に、貴重なご意見をありがとうございました。また、私たちもまた新たな見方や捉え方やヒントをいただきましたので、今後の企画運営に活かしてまいりたいと思っております。

(5) 閉会の挨拶（臼井副委員長）

今日はありがとうございました。いけばりピーターになるし、いけば効果があって自信が持てるそんなはつらつ体験塾は改めて素晴らしい活動であるという認識を深めることができました。ということは、いくまでのところに何かしらの障壁になっているものがあるんだろうなと感じました。だったらいつてみたいなと思えるようなその障壁をどうやったら壊せるのかというところをみんなで考えていく必要があるかなと思いました。本日はありがとうございました。

Ⅲ はつらつ体験塾推進計画

令和 7 年度不登校児童生徒体験活動推進事業
「はっらっ体験塾」推進計画

新潟県少年自然の家

1 目的

不登校・不登校傾向のある児童生徒の生きる力を育み、日常の様々な場面で身に付けた力を発揮すると共に、多様な学びの場に参加しようとする意欲を高める。

※IKR 評定用紙を基にした「生きる力」の定義

「心理的社会的能力」積極性、明朗性、交友・協調、視野・判断、適応行動

「徳育的能力」自己規制、勤勉、思いやり

「身体的能力」日常的行動、身体的耐性

2 目的達成のための主な手立て

- (1) 評価指標（別紙 1）を基に生きる力を高めることを意図した体験活動を設定し、各活動の目標を達成できるように働きかける。
- (2) 児童生徒一人一人の内面や気持ちに寄り添いながら共に活動する。
- (3) 温かい雰囲気の中でゆとりのある活動構成を展開する。
- (4) 成功体験を積むことができるように体験活動の視覚支援や児童生徒の言動、行動などを認め、価値づけるかかわりをする。
- (5) スタッフ、学校や教育支援センター（適応指導教室）等の関係機関、保護者との連携を密にしながら、体験活動を進める。

3 期待される効果

(1) 自己肯定感の向上

肯定的な雰囲気のある集団に所属し、体験活動を通じて成功体験を積んだり達成感を味わったりすることで、自分に対する自信や価値観が高まり、自己肯定感が向上することが期待できる。

(2) 自己調整力（メタ認知）の向上

自然とかかわる体験活動は、心身のリフレッシュになり、様々なストレスや不安が軽減されたり自らストレスをコントロールしたりする力が向上することが期待できる。

(3) 新しい視点の獲得

体験活動を通じて新しいことに挑戦する中で、視野が広がり、生活を新しい視点で見つめなおすことができる。特に、実生活とのつながりや将来の見通しをもたせるような活動は、将来の進路や目標について具体的に考えるきっかけを与えることが期待できる。

(4) 社会的スキル（対人関係、コミュニケーション能力）の向上

グループ活動や協力が求められる体験活動では、他の児童生徒や指導者と自然な形で交流が生まれる。異年齢の児童生徒や大人と交流する中で、他者を理解しようとする態度やコミュニケーション能力が育まれる。

4 参加対象、定員

- (1) 不登校・不登校傾向のある小学校１年生から中学校３年生
(2) 定員 ・ミニキャンプ…２０名程度（初参加者優先・抽選決定）
・フレンドリーキャンプ、チャレンジキャンプ
…３０名程度（初参加者優先・抽選決定）

※児童生徒の状況により保護者の付添・見学について相談に応じる。
学校・教育支援センター（適応指導教室）等関係者の参加も同様。

5 参加費

食事代、宿泊費、活動に使った物品の料金を徴収

6 期日及び場所（予定）

	キャンプ	期 日	会 場	主 な 活 動
第1回	日帰りミニ キャンプ	5月10日(土)	新潟県 少年自然の家	野外ゲーム ぽっぽ焼き
	フレンドリー キャンプ	6月14日(土) ～15日(日)		大峰山登山 グラスキャンドルファイア カヌー・海遊び
	チャレンジ キャンプ	7月12日(土) ～13日(日)		テント泊 キャンプファイア・焚火体験 野外炊さん
第2回	(1) 日帰りミニ キャンプ in 新潟	8月24日(日)	新潟市 アグリパーク	畜舎体験 アイスクリーム作り
	(2) 日帰りミニ キャンプ in 柏崎	9月27日(土)	柏崎 夢の森公園	ザリガニ釣り 鹿角クラフト
第3回	日帰りミニ キャンプ	11月15日(土)	新潟県 少年自然の家	うどん打ち モルック
	フレンドリー キャンプ	12月13日(土) ～14日(日)		クリスマス飾りづくり キャンドルファイア 電車に乗ってランチ
	チャレンジ キャンプ	1月17日(土) ～18日(日)		電車に乗って食材の買い出し インドアアスレチック お楽しみ会(昼食会)

※第2回日帰りミニキャンプの開催地について

県内全域の不登校・不登校傾向の児童生徒を対象とした事業であり、広く周知を図ることから、隔年で会場を変更しての開催を予定する。

- (1) 下越地方を中心とした社会教育施設 (R6 は五頭)
(2) 上越と中越を隔年で実施 (R6 は妙高)

7 各キャンプの目的等について

(1) 日帰りキャンプ

目的：本事業に興味・関心をもつ。
活動：気軽に参加できる内容とする。

<保護者との連携・対応>

活動の様子や雰囲気を知ってもらうために児童生徒と一緒に参加または見学を促す。また、事業に対する理解と協力を得るために、保護者向けオリエンテーションを行い、目的や概要について説明する。

(2) フレンドリーキャンプ

目的：参加者の「心理的社会的能力」「徳育的能力」を高めるために自然や人とのかかわることの楽しさや協力して活動する良さを味わう。
活動：異年齢グループを意図的に作成し、自然の中でグループ内で協力して目的を達成する体験活動を設定する。

<保護者との連携・対応>

子どもとのかかわりや家庭生活に関わる情報交換をしてもらえるように、保護者交流会を設定する。

(3) チャレンジキャンプ

目的：参加者の「心理的社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」を高めるためにチャレンジングな体験活動を設定し、自分たちの力でやり遂げたことへの達成感を味わう。
活動：目的達成のために参加児童生徒が自分たちで考え、主体的に行動できる体験活動を設定する。

<保護者との連携・対応>

子どもたちの現在または将来の生活を見据えて講師またはSSWを交えたワークショップを行う。

8 広報計画

(1) 年度末広報

- ・ボランティア・看護師確保のために大学・短大にチラシを郵送する。

(2) 年度初広報

- ・教育委員会、学校関係、教育支援センター適応指導教室にメールでチラシを送信する。

※募集チラシに参加にはアンケートへの協力が必須であることを明記。

(3) 年間広報

- ・(2)の宛先にキャンプの事前案内と申込書をメール送信する。
- ・(2)の宛先にキャンプ終了後にはつらつ通信をメール送信する。
- ・新潟市及び県の研修会での広報（新年度4月以降の実施）は、継続して実施する。（年度末に連絡をとる）

(4) 出前指導（必要に応じて）

9 事業評価

- (1) 当日に実施する振り返りアンケートと家庭で実施する評価用紙を基に事業評価を行う。
- (2) 上記の結果を基にして次年度の体験活動や働きかけの設定を行う。
- (3) 定量評価と定性評価をするために家庭で実施する評価用紙に記述欄に設け、家庭・地域・学校等での行動の変容を調査する。
- (4) 各キャンプ終了後に実施状況報告書を作成する。年度末に当該年度事業実施報告書の作成に着手し、6月に登校状況アンケートを実施して分析、評価をする。

10 運営組織

- (1) 主催 新潟県教育委員会
- (2) 推進委員会（年1回開催）
 - ① 構成

推進委員	学識経験者、学校関係者、適応指導教室関係者、自然の家所長
オブザーバー	県教育庁生徒指導課担当者、関係施設職員
事務局	県教育庁生涯学習推進課担当者

- ② 内容 事業の全体計画や事業効果等についての協議

- (3) 運営スタッフ

① 総括

- (ア) 構成 教育庁 生涯学習推進課 担当社会教育主事
- (イ) 内容
 - 活動の企画立案、全体調整
 - 各機関との調整
 - 推進委員会の運営・準備
 - 記録の作成
 - 広報

② 指導スタッフ

- (ア) 構成 教育庁 生涯学習推進課 担当社会教育主事
新潟県少年自然の家 事業課職員
- (イ) 内容
 - 各キャンプの具体的な計画作成
 - 参加児童生徒、学生ボランティアの健康管理
 - 各キャンプの活動の具体的な進行、準備、後始末
 - 参加児童生徒、学生ボランティアの指導
 - けが等への対応

③ 学生ボランティア

- (ア) 構成
 - 大学・専門学校等に籍を置く学生
 - 日帰りミニキャンプ2名程度
 - フレンドリーキャンプ・チャレンジキャンプ
各10名程度
- (イ) 内容
 - 指導スタッフと協力しながら、活動の具体的な展開
 - 児童生徒と活動・生活を共にしながらの支援・指導

④ 外部指導者

(ア) 構成 資格や特技等をもっている方やグループ

(イ) 内容 ○各自の得意な場面で児童生徒に指導助言
○事業・活動のねらいに沿った活動

⑤ 看護師

(ア) 構成 ○看護師または養護教諭の資格をもっている方

○フレンドリーキャンプ・チャレンジキャンプ各1名

(イ) 内容 参加者・学生ボランティアの救護等

11 推進日程

(別紙2)に記載。

(別紙 1)

心理的社会的能力	
非依存	いやなことははっきりといえる
	小さなしっばいはこわくない
積極性	自分で計画を立てられる
	まえむきにがんばることができる
明朗性	自分からすすんではなしかけることができる
	しっばいしてもはやくたちなおることができる
交友・協調	あなたをすきなひとがたくさんいる
	だれとでもなかよくできる
現実肯定	じぶんがすき
	だれにでもあいさつができる
視野・判断	しおりをみてじぶんでこうどうできる
	じぶんのいやなところやがんばりたいことをみつける
適応行動	ひとのはなしをきちんときくことができる
	そのばにあったこうどうができる
徳育的能力	
自己規制	じぶんかってなことをしたりわがままをいったりしない
	おかねやもののむだづかいをしない
自然への関心	はなやふうけいなどうつくしいものにかんどうする
	春夏秋冬ときせつがかわることがわかる
まじめ勤勉	いやがらずにがんばることができる
	自分のやるべきことをきちんとできる
思いやり	ひとのために何かをしてあげることがすき
	ひとが悲しい気持ちになったときがわかる
身体的能力	
日常的行動力	はやねはやおきができる
	からだをうごかすのはとくい
身体的耐性	あつさやさむさをがまんできますか？
	けがをしてもがまんできる
野外技能・生活	道具を上手につかうことができる
	しょつきをあらうことができる

(別紙2) 令和7年度はつつ体験塾推進予定

月	キャンプに直接関わること	広報活動	推進委員会・所内会議	報告書 他
1				
2			推進委員会 会場予約 (1月下旬～2月上旬) ※事務システムをチェック！	
3	第1回計画立案・下見・講師依頼 日帰りミニキャンプin新潟(8/24) 日帰りミニキャンプin柏崎(9/27) 利用申し込み(3月中)	令和6年度末広報 (学生ボランティア関係・大学・短大)	次年度推進委員依頼 ※3/25前後(報道発表後)	令和6年度 事業実施報告書 作成準備開始
4	第1回 参加者募集 ミニ胎内参加者・学校・教育支援センター連絡	令和7年度初広報 (R7事業案内・第1回案内)	推進委員委嘱	令和6年度 追跡調査 成果まとめ
5	日帰りミニキャンプ in 胎内(5/10) 1FC学生ボランティア・看護師依頼	第2回計画立案・下見・講師依頼	オンライン会議ができる 環境の構築	第1回日帰りミニ 実施状況報告提出
6	1FC参加者・教育支援センター連絡 第1回フレンドリーキャンプ(6/14・15) 1CC学生ボランティア・看護師依頼			令和6年度 事業実施報告書 完成・送付
7	1CC参加者・教育支援センター連絡 第1回チャレンジキャンプ(7/12・13) 第1回反省・事後処理	第2回 参加者募集		第1回フレンドリー 実施状況報告提出 第1回チャレンジ 実施状況報告提出
8	ミニ新潟参加者・学校・適応連絡 ※お盆休みに注意！ 日帰りミニキャンプin新潟(8/24)		令和8年度推進・実施計画 素案 所内検討 令和8年度予算案所内検討	第2回日帰りミニ 実施状況報告提出
9	第3回計画立案・下見・講師依頼 ミニ柏崎参加者・学校・適応連絡 日帰りミニキャンプin柏崎(9/27)		推進委員会開催通知	第2回日帰りミニ 実施状況報告提出
10	第3回 参加者募集 ミニ胎内参加者・学校・教育支援センター連絡 日帰りミニキャンプ in 胎内(11/15) 3FC学生ボランティア・看護師依頼		推進委員会(10/16 14:00-16:00) Zoom開催	
11	3FC参加者・教育支援センター連絡 第3回フレンドリーキャンプ(12/13・14) 3CC学生ボランティア・看護師依頼	教育支援センター(適応指導教室)への 出前指導	推進委員会 議事概要の作成	第3回日帰りミニ 実施状況報告提出
12	3CC参加者・教育支援センター連絡 第3回チャレンジキャンプ(1/17・18)			第3回フレンドリー 実施状況報告提出
1	第3回反省・事後処理	令和7年度末広報計画審議	推進委員会 会場予約 (1月下旬～2月上旬) ※事務システムをチェック！	第3回チャレンジ 実施状況報告提出
2	日帰りミニキャンプin妙高 利用申し込み ※利用期日の6か月前の月初めから開始 令和8年度は妙高での開催 共催準備・申請(新潟) 会場・活動予約等	令和7年度末広報	令和8年度推進・実施計画作成	
3			次年度推進委員依頼 ※3/25前後(報道発表後)	令和7年度 事業実施 報告書着手

IV はつらつ通信

はつらつ体験塾 通信



第1回はつらつ体験塾日帰りミニキャンプ 号 令和7年5月23日

新潟県少年自然の家

新しい出会いと体験がいっぱい！

5月10日（土）に「第1回はつらつ体験塾 日帰りミニキャンプ」を実施しました。今年度最初の「はつらつ体験塾」は、保護者と学生ボランティアさんを含めて総勢28人。「新しい出会いと再会の体験」を存分に楽しみました。

日 程	9:30～ 受付	9:45～ 出会いの つどい	9:50～ 出会いの レク	10:20～ ぼっぼ焼き 作り	12:00～ 昼食	13:00～ オリエンテ ーリング	14:30～ 振り返り	14:45～ 別れの つどい
-----	-------------	----------------------	---------------------	-----------------------	--------------	-------------------------	----------------	----------------------

【出会いのレクリエーション】

出会いのレクリエーションは、「自己紹介ゲーム」と「ぼっぼ焼きクイズ」を活動班でやりました。自己紹介ゲームでは、隣の人の好きなものと自分の好きなものを話しながら、自己紹介をしました。ぼっぼ焼きクイズでは、ぼっぼ焼きの作り方のポイントを確認しました。どちらも簡単なレクリエーションですが、お互いの距離が縮まりました。



【ぼっぼ焼き作り】

火加減に気をつけながら、役割分担を変え、各班3回から4回ぼっぼ焼きを作りました。協力することや助け合うことの大切さを学びました。また、回を重ねるごとに上達していく様子も見られました。自分で作ったぼっぼ焼きの美味しさに驚いている人がたくさんいました。

【オリエンテーリング】

午後からは、一番人気の野外ゲーム「オリエンテーリング」にチャレンジ。お互い励まし合い、協力しなければポストを見つけることができません。制限時間1時間という中で、マイペースでゆっくり歩く班、全てのポストを見つけるために早歩きをする班もありました。中学生がリーダーシップを発揮して、ほとんどの班が時間内にゴールできました。



活動をとおして、笑顔いっぱい元気いっぱいになった子どもたちからは「とっても楽しかった」「次も参加したい」という声がたくさん聞こえてきました。ぜひ次回も自然の家に来てください。

はつらつ体験塾担当：保坂・須田

はつらつ体験塾 通信



令和7年度 第1回フレンドリーキャンプ号 令和7年6月27日

新潟県少年自然の家

梅雨空に負けず、みんなで協力して活動しました

6月14日(土)・15日(日)に、新潟県少年自然の家を会場にして、第1回はつらつ体験塾フレンドリーキャンプが行われました。小・中学生21人、学生ボランティア5人が参加したキャンプの様子をお知らせします。

6月14日(土)

13:00	13:30	13:40	14:00	14:30	15:30	16:00	17:30	18:30	19:30	21:30
受付	出合いのつどい	出合いのレクリエーション	オリエンテーション	館内POL	ベッドメイキング	館内チャレンジ	夕食休憩	グラスキャンドルファイア	お風呂自由時間	就寝

朝からの降雨で、登山道が悪路になることが予測されたので、当所予定していた要害山登山の代わりに自然の家で人気の館内ゲームを実施しました。

○出合いのレクリエーション

セブンイレブンじゃんけんを行いました。出せる指の数は、「2」「3」「4」「5」で、2人の指の数の足し算が「7(セブン)」になれば成功です。「セブンイレブンじゃんけんぼん」の掛け声でじゃんけんをします。全員と成功するまでチャレンジは続きます。じゃんけんを通じて、少しずつですが全員と関わることができました。じゃんけん成功し、喜びを分かち合うことでお互いの関係性が深まりました。勝ち負けのない幸せなじゃんけんが最高の出合いのレクリエーションになりました。



○館内POL(フォトオリエンテーリング)

館内の18枚の写真を手がかりに館内各所にあるチェックカードを探して、暗号文を解いていくゲームです。今回は、難しいバージョンにチャレンジしました。活動班で協力しながら、次々とチェックカードを見つけていきました。最後にすべての文字を組み合わせた暗号を解いたときに、全員で喜ぶ姿が見られました。1位の班は、スタートから34分でゴールしました。暗号の解読に時間がかかる班もありましたが、全部の班が一時間以内にゴールしました。



○館内チャレンジ

館内にある8つのチャレンジを班の仲間で協力してクリアして、暗号文を解き、最後に宝箱を開けるゲームです。館内POL以上に協力しなければ、チャレンジをクリアすることができません。暗号を解いた後に、宝箱を開けるためのクイズにチャレンジします。宝箱の中身は、冷えたスポーツドリンクでした。蒸し暑い館内で汗をかきながら積極的に活動した参加者には最高のご褒美でした。仲よく美味しそうにスポーツドリンクを飲む姿が印象的でした。



○グラスキャンドルファイア

夕食後に活動班ごとに集合して、グラスキャンドルファイアを行いました。一人一人が自分のグラスに水を張るところから始めて、ろうそくを浮かべて火をつけました。きれいな火を見つめながら、素直な気持ちになり、今日の活動の振り返りや同じ活動班の友達の良い所などを語り合いました。また、明日の活動で楽しみなこと、頑張りたいことも発表して、前向きな気持ちを共有しました。参加者の中に誕生日の人がいたので、全員でバースデイソングを歌って誕生日のお祝いもしました。



6月15日(日)

6:00	7:30	9:00	12:20	13:00	13:15	13:30
起床	朝食	海遊び	昼食	ふり回り	別れのつどい	解散

○海遊び

二日目も天気は回復せずに、梅雨空の中でのスタートとなりました。前日の屋外での活動が変更になったので、多くの参加者が楽しみしている外での活動（カヌー体験と海遊び）ができるかどうか心配になる空模様でした。カヌー体験は、ダムの放水量が多く中止となり、全員で海遊びをすることになりました。

海遊びは、最初に身支度から始めました。所員の説明を受けて、正しくライフジャケットを着用してカヌー艇庫から荒井浜までゆっくり歩いて向かいます。荒井浜に到着したら、砂浜に落ちている珍しいものを探しながら歩きます。じっくりと探した結果、貝殻や珍しい色や形の石、シーガラス、コウイカの骨などを見つけました。その後、全員で集合して、サンドアート制作に入りました。散策で見つけたものは、サンドアートの大切な素材になります。全員で協力して、底が抜いてある大きなポリバケツや小さなバケツ、オイル缶などを利用して大小さまざまなサンドアートの土台を作ります。大きなポリバケツに砂や海水を入れるのは大変な作業です。砂を運ぶ人、砂をポリバケツに入れる人、海水を運ぶ人、全員で効率よく分担しながら作業をしなければ前に進みません。参加者の様子を見てみると、お互いがコミュニケーションを取りながら、土台をつくるために手分けをして作業を進めていました。土台を作った後は、大きな山をデザインしていきます。有名なテーマパークにある山の形に似せて砂を削り、溶岩が出るような穴を開けたりしました。また、小さな山には、海岸散策で拾ってきた貝殻などをのせてデコレーションしました。小雨が降る中での活動でしたが、全員で仲よく楽しく元気よく活動することができました。

梅雨空の中での二日間でしたが、蒸し暑さや雨にも負けず、参加者の笑顔があふれる楽しいキャンプとなりました。天候不順による急な予定の変更があっても、前向きに協力して活動することができました。学生ボランティアの皆さん、保護者の皆様のご協力があり、今回ののはつらつ体験塾も大成功を収めることができました。ありがとうございました。



はつらつ体験塾担当：保坂吉彦・須田洋介

はつらつ体験塾 通信



令和7年度 第1回チャレンジキャンプ号 令和7年7月吉日

新潟県少年自然の家

たくさんのチャレンジで感じる達成感と充実感

7月12日(土)・13日(日)に、新潟県少年自然の家を会場にして、第1回はつらつ体験塾チャレンジキャンプを開催しました。小・中学生18人、学生ボランティア2人が参加したキャンプと同日開催をした保護者ワークショップの様子をお知らせします。

7月12日(土)

13:00 13:30 13:40 14:10 14:30 17:30 18:30 19:30 21:00 21:30

受付	出合いの つどい	レクリエー ション	オリエ ンテー ション	テント設営 焚火体験準備	夕食 休めい	焚火 体験	お風呂 自由時間	就寝
----	-------------	--------------	-------------------	-----------------	-----------	----------	-------------	----

○自分たちの力でやるぞ！～テント設営・テント泊にチャレンジ～

ドームテントと一緒に泊まる仲間と設営します。暑い日差しが降りそそぐ中、説明書とにらめっこをしたり、どうすれば立てられるかを話し合ったりする姿がたくさん見られました。いつもは手伝ったりアドバイスをしたりするスタッフと学生ボランティアはぐっと我慢をして見守りに徹します。時間はかかりましたが、無事にテントを設営することができました。18:30からの焚火の準備もしました。日が暮れると気温は下がり翌朝は寒いくらいでした。普段と違う環境で「寝られなかった」という参加者も多くいましたがテント泊でのチャレンジに見事成功し、達成感を感じることができました。



○初めて友達と焚火をします！～スモアづくりにチャレンジ～

スモアというお菓子を知っていますか？焚火でマシュマロを焼いてビスケットやクッキーではさんだ甘いスイーツです。焚火初チャレンジという参加者から、焼きマシュマロは食べたことがあるけれど、スモアは初チャレンジという初めて尽くしのスタートでした。好きな材料を持って行ってそれぞれが思い思いにスモアを作って食べました。自分で作ったスイーツは最高！スモアだけでなく焚火の火を眺めながら、落ち着いた夜を迎えることができました。



○保護者ワークショップ～はつらつ体験塾卒業生に話を聞く～

「保護者にも元気になってもらいたい」
 今回ははつらつ体験塾卒業生の大学生をお招きして当時感じていたことや今になって思うことをプレゼンしていただきました。将来のことを心配している方が多く見受けられましたが、回り道もムダではないこと、保護者が元気であることが当事者にとっても嬉しいことであるという話を聞いて元気になった、安心したという感想をいただきました。また、「子どもにこんな風になってもらいたい、こんな力を身に付けてもらいたい」という思いを、お菓子を食べながらお茶を飲みながら書き出して全員でシェアしました。様々な思いをシェアする中で新たな考えや視点に気付くことができた方も多く、話をするだけでなく形にすることで、はつらつ体験塾の一つの財産となっていくことを感じました。ご参加の皆さんありがとうございました。次回は1月に開催いたします。



7月13日(日)

6:00 6:30 6:45 7:30 9:00 11:30 13:00 13:15 13:30

起床	朝のつどい	テント片付け	朝食	野外炊さん	昼食・片付け	振り返り	別れのつどい
----	-------	--------	----	-------	--------	------	--------

○自分たちの力でお昼ご飯を作るぞ！～カレーライスづくりにチャレンジ～

最後の活動はカレーライスづくりです。かま場班と調理班に分かれて自分たちの力で作ります。初めて包丁をもって料理をする参加者、火に気を付けながら初めて熱い鍋をもつ参加者もあり、こちらでも初めてのチャレンジが盛りだくさんです。暑い中でしたが、水分をとったり、時折館内で休憩をとったりしながらおいしいカレーライスを作ることができました。



今回ののはつらつ体験塾では、参加者がたくさんのチャレンジにあきらめずに立ち向かい、クリアすることで達成感を感じる姿がたくさん見られました。関係の皆様にご理解ご協力をいただき、本当にありがとうございました。

はつらつ体験塾担当：保坂吉彦・須田洋介

はつらつ体験塾 通信



第2回はつらつ体験塾日帰りミニキャンプ in 新潟号 令和7年9月5日

新潟県少年自然の家

「つながり」のある楽しい体験がいっぱい！

8月24日（日）に「第2回はつらつ体験塾日帰りミニキャンプ in 新潟」を実施しました。今年度最初の外部施設での「はつらつ体験塾」は、保護者と学生ボランティアさんを含めて総勢28人。新潟市アグリパークの「つながり」のある楽しいプログラムを存分に楽しみました。

	9:30	9:45	10:00	10:15	12:00	13:00	14:00	14:45	15:00
日程	受付	出会の つどい	出会の レク	野菜収穫 ピザ作り	昼食	搾乳体験 餌やり体験	アイスクリ ーム作り	振り返り	別れの つどい

【野菜収穫・ピザ作り】

午前中の体験プログラムは、野菜を収穫してそれを具材にしてピザ作りをしました。ピザは、ペアで1枚のピザを作ります。最初に野菜クイズで野菜に関する知識を深めました。その後、ピザに必要な野菜の種類と数を教えていただき全員で体験ほ場（野菜畑）に出かけました。ピザの具材以外にもお土産用に他の野菜も収穫させていただきました。採ってきた野菜は、包丁で細かく刻みます。ピザ生地を丁寧に伸ばして、ピザソースをぬって具材をのせていきます。すべての具材をのせたら、専用のピザ窯で焼いてもらいます。ピザは、約3分か4分で焼きあがります。焼きあがったピザをペアで美味しく食べる様子が見られました。また、同じテーブルの他のペアとピザの交換していました。ただ単にピザを作るのではなく、ピザにのせる野菜のことを知り、野菜を収穫してピザにのせるという「つながり」を体験しました。



【搾乳体験・餌やり体験】

午後からは、搾乳体験と餌やり体験を体験畜舎でさせていただきました。牛に関するクイズや体験畜舎での注意点を教えていただき、2つのグループに分かれて活動しました。搾乳する時、餌をあげる時の注意点を再度丁寧に教えていただき全員が牛と触れ合うことができました。搾乳した後、餌をあげた後、牛を撫でて触れ合う参加者がたくさんいました。撫でて触れ合うことで感謝の気持ちを伝えます。体験畜舎にいるヤギや羊とも触れ合っていました。



【アイスクリーム作り】

搾乳体験・餌やり体験が終わった後は、前に搾乳した冷たい牛乳をいただきました。その後、アイスクリーム作りを体験しました。最初に氷を細かく砕いてプラスチックのボールにあけて塩を振り、マイナス20度まで冷やします。その上にアイスクリームの元が入ったステンレスのボールゆっくり回して、アイスクリームの元が凍るのを待ちます。ゆっくり回していると、底の方から凍り始めてアイスクリームが出来上がってきます。ボールについたアイスクリームを大きなスプーンではがしてそれを集めてグラスに入れて食べます。シンプルなアイスクリームですが、気温35度に達したこの日の気候で最高のおやつになりました。全員が美味しくいただきました。搾乳体験・餌やり体験を通じて、牛との触れ合いを体験してからアイスクリーム作りでしたが、ここでも「つながり」を体験することができました。



今年度初めての外部施設を利用したはつらつ体験塾でしたが、新規の参加者も含めて多くの参加者から「参加して良かった」「また参加したい」という声が聞こえてきました。次回も外部施設を利用したはつらつ体験塾になりますが、多くのみなさんの参加をお待ちしております。

はつらつ体験塾担当：保坂・須田

はつらつ体験塾 通信



第2回はつらつ体験塾日帰りミニキャンプ in 柏崎号 令和7年10月 日

新潟県少年自然の家

楽しくてためになる体験がいっぱい！

9月27日（土）に「第2回はつらつ体験塾日帰りミニキャンプ in 柏崎」を実施しました。今年度2回目の「出張！はつらつ体験塾」は、保護者を含めて総勢14人。柏崎・夢の森公園で楽しいプログラムを存分に楽しみました。

日程	9:30 受付	9:45 出会いの つどい	10:00 出会いの レク	10:30 森歩き ザリガニ釣り	12:00 昼食	13:30 鹿角 クラフト	15:00 振り返り	15:15 別れの つどい
----	------------	---------------------	---------------------	------------------------	-------------	---------------------	---------------	---------------------

【森歩き・ザリガニ釣り】ザリガニ釣りは、少年を大人にする！大人を少年にする！

午前中の体験プログラムは、森歩きから始まりました。公園のスタッフの方から珍しい植物やキノコ、触れてはいけない植物を丁寧に教えてもらいました。ザリガニ釣りで竿の代わりに使えるような枝を探しながらの探検です。探検が終わると、池のそばにある東屋で、拾ってきた枝に仕掛けを結ぶ方法を教えてもらいました。キャンプでも役立つロープワークです。事前の連絡で、ザリガニが釣りにくい状況だという情報もありましたが、すぐにザリガニを釣り上げることができました。小さなザリガニも大きなザリガニもありますが、ザリガニとの駆け引きを楽しみながら、全員釣ることができました。釣ったザリガニは、池に戻したり、夢の森で飼っているミドリガメの餌にしたりしました。なんでも甲羅を作る大事な栄養素になるとのこと。よほど楽しかったのか、お昼休みにもう一度釣りに出かける参加者も大勢いました。



【鹿角クラフト】人と鹿の共存について考える

午後からは、鹿角クラフト体験をしました。最初に鹿に関する知識を簡単に教えていただきました。鹿の生態やかわいさだけでなく、草木を食べ過ぎてしまうことで害獣としての側面も持ち合わせていることを学びました。山の草木がなくなることで土砂災害の危険性が高まっている地域もあるそうです。また、本物の鹿の角や骨、毛皮も準備していただき、実際に見たり触ったりすることで鹿への興味・関心を高めることができました。

その後、自分が使いたい鹿の角やビーズなどを選び、それを紐に通してストラップを完成させます。黙々と作業を続けながら、全員が時間内に完成させることができました。お互いの作品を見比べて話したり、完成したストラップを、早速自分のバッグに付けたりする姿が見られました。「おうちの人へのプレゼントにします!」と言って持ち帰る参加者もありました。人と動物、自然との関わりについて考えるきっかけをくれたクラフト体験でした。



今年度2回目の「出張!はつらつ体験塾」でしたが、今回も多くの方から「参加して良かった」「また参加したい」という声が聞こえてきました。次回は、自然の家での「はつらつ体験塾」になります。体験活動をととしてより多くの学びが得られるように準備を進めていますので、ぜひ、ご参加ください。お待ちしております。

はつらつ体験塾担当：須田・保坂



はつらつ体験塾通信

11/15(土)第3回はつらつ体験塾

日帰りミニキャンプ号

令和7年11月18日発行

9:45 出会いの つどい	9:50 出会いの レク	10:20 うどん うち	12:20 昼食	13:30 モルック	14:45 振り返り	15:00 別れの つどい
---------------------	--------------------	--------------------	-------------	---------------	---------------	---------------------



小・中学生、保護者、学生ボランティア総勢22名が参加し、新潟県少年自然の家で開催しました。「出会いのレク」では、バースデーライン、グループで数字合わせじゃんけんをしました。初めて会う人、久しぶりに会う人と笑顔でコミュニケーションをとることができ、参加者全員で温かい雰囲気をつくることができました。

「うどんうち」は初めてチャレンジする参加者が多く、グループごとに出来上がりの時間に差がついてしまいました。ところが！協力できる素晴らしい皆さんです。グループを超えて手伝う姿が見られ、見事時間内に完成させることができました。もちろんうどんは大成功！美味しくお腹いっぱい食べることができました。



午後は「モルック」です。フィンランド生まれの誰もが楽しめるゲームにチャレンジしました。ゲームで盛り上がったことはもちろんですが、ルールを覚えて審判を手伝ってくれる参加者がいました。ここでも協力して「楽しもう！」とする言葉や温かい雰囲気にあふれた素敵な時間となりました。

参加者の声	保護者の声
・みんなで分担してできてよかった。(中3男子) ・初めてうどん作りができて楽しかったです。(中2女子) ・こねるのが楽しかった。(小6男子) ・モルックがたのしかった。(小2男子)	・娘が積極的に参加する姿が見られて私も元気をもらえます。(小3女子・母) ・初参加でしたが、私も娘も楽しかったです。今度一緒に参加した方がいいのか悩んでいます。もっと娘が周りの参加者とからめるようになるといいな。(中2女子・母)

次回はフレンドリーキャンプです。ひょうたんでクリスマス？巨大クリスマスツリーの点灯式？電車でランチ！寒さに負けず「なかよく たのしく 元気よく」活動しましょう！

新潟県少年自然の家はつらつ体験塾担当:保坂・須田

はつらつ体験塾通信



12/13(土)14(日)第3回はつらつ体験塾フレンドリーキャンプ号

小・中学生、保護者、学生ボランティア、看護師の総勢 29 名がキャンプに参加し、保護者プログラム参加の11名を合わせた総勢40名での開催となりました。

★1日目 12月13日(土)

13:30 13:40 14:10 15:00 17:30 18:30 19:30 21:30

出会い のつど い	レクリ エーシ ョン	バッド メイ キング	クリスマスツリー デコレーション	夕食 休けい	点灯式	お風呂 自由時間	就寝
		保護者プログラム14:10～16:00					

「出会いのレク」では、参加者同士のコミュニケーションと相互理解が深まるように、マイノリティゲーム、グルーピングゲームをしました。面識のある人でも意外な一面がある！？新たな発見があるレクリエーションとなりました。

「クリスマスツリーデコレーション」は、自然の家自慢の約4メートルある大きなツリーに全員で協力して飾りつけをします。まずは、ひょうたんを使ったオーナメントづくりをしました。様々な色を使ってデザインしたり、かわいいキャラクターにしたり、参加者一人一人が選んだひょうたんの形に合う個性的なデザインに仕上がりました。



次はいよいよ巨大クリスマスツリーのデコレーションです。中学生は、巨大ツリーに脚立を使って高いところの飾りや電飾を取り付けます。小学生は協力して作った段ボールレンガ、ひょうたんオーナメントをツリーにデコレーションしてついに完成！あえて役割分担を伝えていませんが、小学生も中学生も、全体の作業内容を理解して、自分の役割を見つけながら協力して取り組むことができました。「点灯式」では、参加者全員でカウントダウンをしてツリーを点灯し、クラッカーを鳴らしました。シャンメリーで乾杯をして、班対抗クイズで盛り上がり、シャンメリータワーに協力してチャレンジしました。これまで体験したことがない楽しいクリスマスの活動になりました。



★2日目 12月14日(日)

2日目は、中条駅から電車に乗ってイオン新発田店に出かけました。寒い中でしたが切符を自分で買い、マナーよく電車を待つ姿が見られました。電車利用のルールとマナーを守って乗ることができました。イオンの方々のご厚意により、空き店舗スペースをお借りすることができました。また今回はなんと従業員通口から入るという中々できない経験をすることができました。皆で仲良くなってからのランチは格別です。バラエティ豊かなメニューの中から好きな料理を自分で注文し、班の中でシェアしながら、好きなものを共有する場面も見られました。



参加者の声

- ・班の人と一緒にランチやクリスマスツリーの飾りつけをするのがとても楽しかった。
- ・クリスマスのイベントが特に楽しく、飾りつけもひょうたんも楽しかった。
- ・人と関わり協力して楽しむためには最初は勇気がいるけれども、大切なことだと感じた。
- ・1月のはつらつ体験塾には参加できないけれども、最後に楽しい思い出ができた。



自然の家 HP
ご覧ください

次回は、チャレンジキャンプになります。新たなチャレンジを準備して皆さんをお待ちしています。
今年度最後のはつらつ体験塾です。楽しく充実した活動にしましょう！

新潟県少年自然の家はつらつ体験塾担当:保坂・須田



1/17(土)18(日)第3回はつらつ体験塾通信チャレンジキャンプ号

令和7年度最後のはつらつ体験塾は小・中学生19名、保護者1名、学生ボランティア3名、看護師1名の総勢24名がキャンプに参加し、保護者プログラム参加の15名を合わせて39名での開催となりました。

★1日目 1月17日(土)

「出会いのレクリエーション」では風船を使って班ごとに活動しました。久しぶりに会う友達と打ち解けて笑顔で楽しく活動できました。「薪づくり体験にチャレンジ」では、自然の家の野外炊さんで多くの人が利用する薪を800本作ることを目標に取り組みました。寒い中でしたが、みんなで果敢にチャレンジする姿が見られ、見事にやりきりました。一生懸命チャレンジした後の夕食は格別です。普段は少食な参加者もぺろりと平らげ、おかわりもたくさんしていました。



子どもたちが薪をつくっている頃、希望する保護者は「ワークショップ」に参加しました。はつらつ体験塾卒業生の保護者から、当時感じていたことや今になって思うことについて話を伺いました。その後は、お茶とお菓子を用意して食べながら飲みながら共感したことや学んだことを付箋に書いて、みんなでシェアしました。和やかな雰囲気の中でみんな笑顔で集合写真の撮影。子どもたちだけでなく保護者の皆さんにも元気になってもらえて嬉しく思います。



夕食の後は2日目の「お楽しみ昼食会の話し合いにチャレンジ」です。中学生がリーダーとなって、メニューや予算に応じた買い物、買い物の分担、調理の分担を決めました。話し合いが少し苦手な子どもたちもチラシを見ながら「〇〇食べたーい」「〇〇もいいね」とみんなで楽しみながら取り組むことができました。



★2日目 1月18日(日)

2日目は、原信に出かけて「予算内での買い物にチャレンジ」です。どの班も予算内で買い物ができて素晴らしかったです。買い物のマナーもばっちり！セルフレジもお手の物でした。



みんなで「ランチづくりにチャレンジ」です。包丁や火の扱いに気を付けて安全に取り組むことができました。できあがったランチはもちろん絶品！みんながお腹いっぱい食べました。



今回のキャンプを最後に「3人の中学生がはつらつ体験塾を卒業」しました。インタビューでは思い出やこれから頑張りたいこと、後輩にメッセージを残してくれました。4月からもはつらつと頑張ってもらいたいと思います。



自然の家 HP
ご覧ください

学校に行きたくない、行きづらいと感じている小学生、中学生の皆さん、自然の家に集まる新しい友達や大学生とわくわくドキドキしながら生きる力と新たな学びの場に行こうとする気持ちを高めてみませんか？来年度は5月からスタートします。お待ちしております。

新潟県少年自然の家はつらつ体験塾担当:保坂・須田